

自
年
月
日

復
活

日独伊同盟条約関係一併

外務省
記
録
自
年
月
日

日独伊同盟条約関係一併

第

二

卷

門
類
項
目
号

B

1

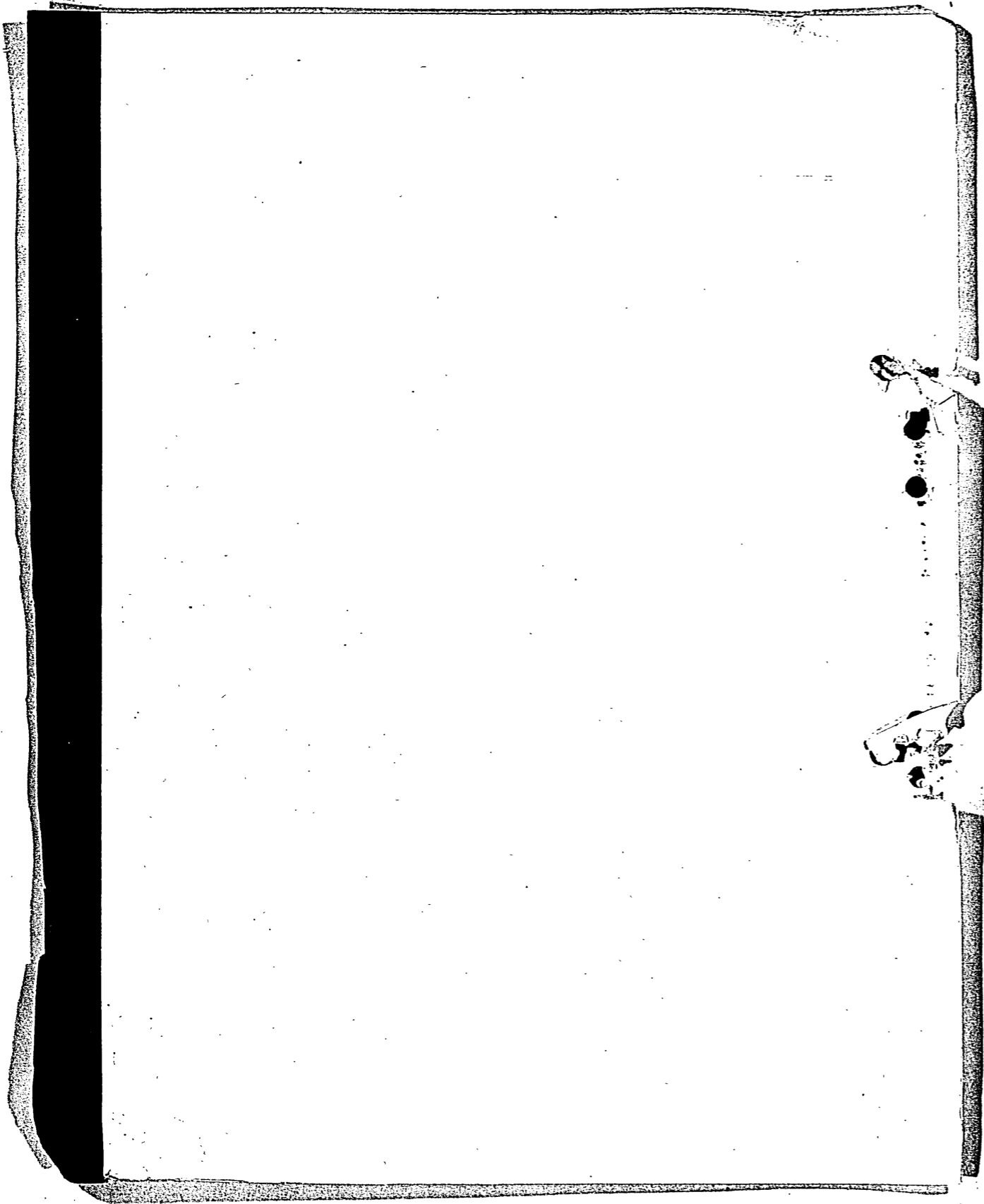
0

0

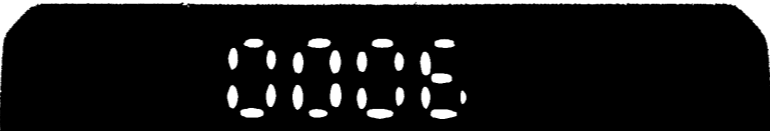
J/x.3

B-0061

0005



B-0061



後
附
書

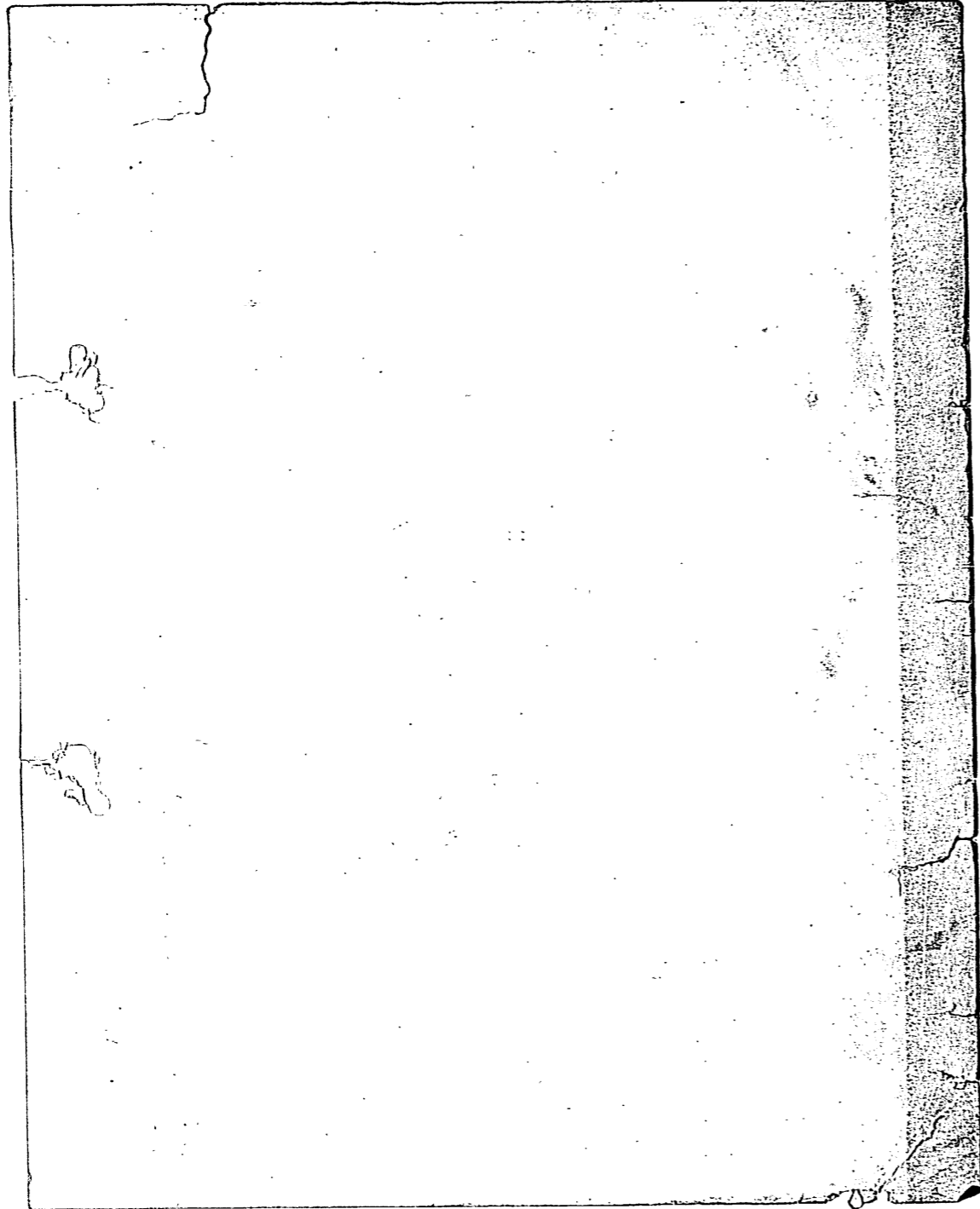
(2)

調書「日独伊三国同盟條約締結要録」

B-0061



秘
録



B-0061



極秘

3376

B.P.O. 3

LPS # 83766

日獨伊同盟條約締結要録

この調書は外務省顧問
齋藤良衛氏の
執筆によるものである

JMT 630 2

B-0061

極
秘

日、獨、伊同盟條約締結要録

外
務
省

詔
書

大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一字タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕カ夙夜眷々措カサル所ナリ而シテ今ヤ世局ハ其ノ騷亂底止スル所ヲ知ラス人類ノ蒙ルヘキ禍患亦將ニ測ルヘカラサルモノアラントス朕ハ禍亂ノ戡定平和ノ克復ノ一日モ速ナランコトニ軫念極メテ切ナリ乃チ政府ニ命シテ帝國ト其ノ意圖ヲ同シクスル獨伊兩國トノ提携協力ヲ議セシメ茲ニ三國間ニ於ケル條約ノ成立ヲ見タルハ朕ノ深ク憚フ所ナリ
惟フニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンセシムルハ曠古ノ大業ニシテ前途甚タ遼遠ナリ爾臣民益々國體ノ觀念ヲ明徹ニシ深ク謀リ遠ク慮リ協心戮力非常ノ時局ヲ克服シ以テ天

外
務
省

B-0061

3376

壤無窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ

御名御璽

昭和十五年九月二十七日

各大臣副署

IMT 630 5

外務省

3376

目次

- 第一、前記
- 第二、交渉經過
- 第三、調印及發表
- 第四、詔書渙發
- 第五、内閣告諭及外務大臣談話
- 第六、東京ニ於ケル日、獨、伊三國官憲ノ交歡
- 第七、條約文及附屬交換公文

IMT 630 6

外務省

B-0061

第一 前記

日、獨、伊樞軸強化ハ昭和十四年ノ平沼内閣以來ノ宿題トシテ殘サレタル我外交上ノ一大難問ナリ、當時國內贊否兩論ノ對立アリ、閣論亦一致ヲ見スシテ甲論乙駁シ、閣議及關係相ノ會談實ニ六十餘回ニ及ヒタルモ、遂ニ廟議ノ決定ヲ見サリシカ、昭和十四年八月二十三日獨露不侵略條約忽然トシテ締結セラルルヤ、平沼内閣ハ國際情勢複雑怪奇ノ言ヲ殘シテ、遂ニ崩壞シ、米内内閣ノ出現ヲ見タリ、當時日支間ノ戰鬪ハ益々擴大シ、蔣政權ハ遠ク重慶ニ退キテ、漸次壞滅ノ道程ヲ辿リツツアリタルニ拘ハラズ、他方舊体制維持國ハ日支事件ノ解決ヲ遷延セシメ、我國ノ消耗困廢ヲ齎ラサンコトヲ策シ、殊ニ英、米二國ハ有形無形ニ蔣介石ヲ援助シ、策謀到ラサル所ナシ、

外務省

就中獨逸ノ對英戰爭カ英帝國ノ崩壞ヲスラ懸念セシムルニ至ルヤ、英米ノ聯契ハ頓ニ緊密ヲ加ヘ、八月初メ早クモ兩國ハ「カリブ」海墨西哥灣方面ニ於ケル英領諸島ノ租借ト多數ノ米國驅逐艦ノ英國讓渡等ニ關スル交渉ヲ開始シ、同月中旬「ルーズベルト」大統領ト「マツケンヂー、キング」加奈陀首相ト「オクデンブルグ」會談ハ米加共同防衛方針ヲ決定シ、之レト前後シテ米國ハ陸海軍備ノ大擴張計畫ヲ發表シタリ、又他方、七月下旬ニ於ケル汎米外相「ハバ」會合ハ南米諸國ヲモ米國陣營ニ引付クルニ或程度ノ成功ヲ收ムル等、米國ハ着々有利ナル体制ヲ整ヘ、鼻息益々荒ク、十一月ノ大統領改選ノ爲メノ國內方略上ノ考量モ亦之ニ加味セラレテ、我國ニ對スル態度ハ日ニ日ニ強硬ヲ加ヘ、些細ナル問題ニ對シテスラ、鬼面ヲ以

外務省

B-0061

テ我ニ臨ムニ至レルノミナラス、濠洲、新嘉坡ニ於ケル英國權益ノ
 米國委讓密約説流布セラレ、英、米兩國ハ我ニ對シ包圍政策ヲ執リ
 ツツアリトノ懸念スラ生スルニ至レリ、於是乎我朝野ノ憂慮日ニ深
 ク、我ト志向ヲ同フスル一國ニテモ多クノ國ト堅ク提携シ、毅然タ
 ル態度ヲ以テ英、米等ニ臨ミ、皇國ヲ泰山ノ安キニ置キ、大東亞諸
 民族ノ共存共榮關係ヲ樹立シ、以テ建國以來ノ我大方針タル八紘一
 宇ノ大理想ノ實現ニ邁進スルニ非スンハ、到底此未曾有ノ難局ヲ打
 破スルノ途無シトスルノ論議ハ、一部親英、米派ヲ除クノ外、我國
 朝野ノ通論トナレリ、然ルニ米内閣ハ寧ロ之レト反對ノ方針ヲ取
 リ、獨、伊又ハ英、米ノ何レニ對シテモ不即不離ノ態度ニ出テ、歐
 戰不介入及極東ノ現状維持ニ關スル聲明ヲ發シタル外、何等積極的

外務省

措置ニ出ツルコトナク、形勢ノ推移ニ應シ善處スルコトヲ以テ外交
 ノ要諦トシタルカ爲メ、民論ハ同内閣ノ處置ヲ苟且偷安トシ、以テ
 時務ヲ托スルニ足ラス思惟シ、閣内ニモ亦之レト所見ヲ同フスルモ
 ノアリ、畑陸軍大臣ハ辭表ヲ提出シタリ、於是米内總理大臣ハ時運
 ノ非ナルヲ察シ、昭和十五年七月、即チ組閣ヨリ九ヶ月ニシテ退閣
 ニ決シ、大命近衛文麿公ニ下ル
 公ノ大命ヲ拜スルヤ、心竊カニ決スル所アリ、組閣ニ先立ち、其ノ
 内閣ノ外、陸、海三相タラシメント意圖シタル松岡洋右、陸軍中將
 東條英機、海軍中將吉田善吾ノ三巨頭ヲ私邸萩窪萩外莊ニ招致シ豫
 メ組閣後ノ對外政策ヲ協議シ、會談三時間半ニシテ日獨伊樞軸強化
 ノ根本方針ヲ決定シタリ、之レ實ニ七月十九日ノコトナリ

外務省

B-0061

越テ七月二十二日近衛内閣成立シ、松岡洋右氏外務大臣トナリ、東條、吉田ノ兩中將夫々陸、海軍大臣トナルヤ、樞軸強化ハ茲ニ正式ニ近衛内閣ノ重要外交政策トナリ、外、陸、海三省事務當局ハ數次ノ協議ニ依リ本件處理方針ニ關シ一原案ヲ作成シタリ
 然レトモ當時獨逸ハ蘭、白、佛、丁ノ諸國ヲ電撃捲席シ、勢當ル可カラサルモノアリ、他方獨逸ノ對英攻撃着々進捗シ、英本國ノ攻略亦敢テ難事トセサルカ如キ形勢ニ在リ、之カ爲メ獨、伊側ノ鼻息甚タ荒ク、樞軸強化ノコトナト暖氣ニモ出サス、其ノ底意ヲ臆シツツモ、先方ヨリ進ンテ之ヲ提議セントスルノ風無シ、其際若シ我ヨリ下手ニ出テ、「日本焦ル」トノ感想ヲ懷カシムルニ於テハ、先方ヨリ附ケ入ラレ、不利益ナル條件ヲ持出サルルノ恐レモアリ、且又獨

外務省

逸ノ英國攻撃ハ白、蘭等攻略ノ場合ト異リ、假令英本國カ獨軍ニ依リ蹂躪セラレ、英帝國カ崩壞シタリトスルモ、事件ハ之レニ依リテ終局ヲ告クルモノニアラス、對米、對露等ノ重大問題ニ直面セサルヲ得ス、就中對英戰爭停頓スルカ如キコトアラハ、米國參戰ノ危險ハ増大シ、勝敗ノ數スラ測リ知ル可カラサルニ至ラントス、此故ニ獨、伊兩國ハ米國ノ戰爭參入ヲ防止セントスル強キ希望ヲ有シ、日本ノ力ニ依リ同國ヲ太平洋方面ニ牽制セントコトヲ企圖スルハ當然ナリト觀察セラレ、旁日、獨、伊樞軸強化ニ關シ我方ヨリ進ンテ何等申出ツルコト無シトスルモ、近キ將來ニ於テ、何等カノ方法ニ依リ彼ヨリ我ニ水ヲ向ケ來ルニ相違無シト豫想シ、我方ヨリハ樞軸強化ニ對シ進ンテ何等提議スルコトナク、慎重ニ狀況ヲ偵察シツツ、最

外務省

B-0061

モ都合良キ機會ノ到來ヲ待ツヲ得策ト認メタリ
 此故ニ我レハ樞軸強化ニ對シ故ラ冷淡ヲ裝ヒ、獨伊ニシテ我ニ接近
 スルヲ欲セス、又ハ之ヲ遲疑スルニ於テハ、我ハ米國ト結ヒ、或ハ
 英國ヲ救フコトモ敢テ辭セストノ態度ヲ示シ、之レカ爲メ當時國內
 ニ澎湃タル排英民間運動ヲ極力抑制シ、又敢テ親英米派ノ策動ヲ阻
 止スルコトモナク、急カス驥カスニ獨、伊側ノ出方ヲ注視スルト同
 時ニ、夙ニ世界ニ向ツテ斥候戰ヲ開始シタル、暫ラクニシテ少シク
 狀況ヲ察知シ得タルヲ以テ、一步ヲ進メ、八月一日松岡外相ハ駐日
 「オット」獨逸大使ヲ御茶ニ招キテ「日、獨、伊樞軸強化カ現今我
 朝野ヲ通シテノ傾向ナルハ貴大使御承知ノ通ナルモ、我國内外ノ事
 情ニ照シ、之レカ實現ハ容易ノ業ニアラス、又廟議モ未タ決定スル

外務省

ニ至ラス、支那事變ノ處理ハ素ヨリ我獨力ニテ成シ遂ケ得ヘキ充分
 ノ確信アリテ、別ニ獨逸ヲ煩ハスノ要ナキモ、八紘ヲ一字タラシメ
 シコトハ、我建國以來ノ不動ノ大方針ニシテ、日本ハ此大理想ヲ實
 現セントスルノ眞劍ナル決意ヲ有ス、其ノ一段階トシテ、先ツ大東
 亞共榮圈内ニ於テ、右理想ニ基キ行動セントスルモノナリ、貴國ハ
 今ヤ歐洲大陸諸國ヲ捲席シ、對英攻撃ノ成果亦誠ニ目醒マシキモノ
 アリト雖、繙テ考フルニ今次戰爭ノ結果英國カ崩壞ニ至レリトスル
 モ、獨逸カ終局ノ目的ヲ達成スルカ爲メニハ、猶ホ長年月ヲ要スヘ
 シ、貴國ハ此ノ二ツノ大局的觀點ヨリ日本トノ提携ノ可否ヲ決スヘ
 キモノナリト告ケタル上「(一)大東亞圈ニ對スル日本ノ理想實現ニ
 付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執リ、又如何ナル事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ル

外務省

B-0061

ヤ、又助クル考ナリヤ、又此圈内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求メントスルヤ
 (二)日「ソ」關係ニ付獨逸ハ如何ニ考フルカ、又如何ナルコトヲ爲シ
 得ルヤ(三)日米關係ニ付キ如何ニ考フルカ、又何ヲ爲シ得ルカノ三點
 ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急「ヒトラー」總統ト「リッペン」ト
 「外相ニ架電シテ、回答ヲ得ラレ度シ」ト要望シタリ、右ハ當時
 ノ情勢ヨリ見テ、獨逸側ノ回答ヲ期待シ得ストノ豫想ノ下ニ爲サレ
 タル偵察戰術ナルカ、先方ヨリハ果シテ久シク何等ノ音沙汰モナク、
 松岡外相ハ態ト催促等ヲ爲スコトナク、之ヲ拋棄シ置キタリ
 其ノ後獨逸ノ對英攻撃ハ日ニ激烈トナリタルニ拘ラス、英本國上陸
 作戰ハ必スシモ意ノ如クナラスシテ、戰爭ハ停頓シ、米國ノ對英援
 助ハ愈々大ヲ加ヘ、獨逸ハ漸ク焦燥シ始メタリト觀測セラレタルヲ

外
務
省

(日本標準規格B5)

IMT 630

15

以テ、松岡外相ハ先方ヨリ何等カノ申出ヲ期待シ、外相自ラ渡獨シ
 テ樞軸強化ヲ促進スヘシトノ一部ノ要請ヲ却ケ、冷靜不動ノ姿勢ヲ
 持シ、若シ期待ノ如ク先方ヨリ乗出シ來ルコトトモナラハ、外交初
 頭ニ於ケル我方ノ一勝利ナリト思惟シタリ、然ル處八月二十四日駐
 獨來栖大使ヨリ電報アリ、「スターマー」公使カ「リッペン」ト
 「外相ノ命ニ依リ、約三週間ノ豫定ヲ以テ東京ヘ急行スル旨ヲ報
 シ來リ、越エテ八月二十八日同大使「リッペン」ト「ロップ」外相ト會
 談ノ際、同外相ハ「ス」ノ使命カ日本ノ近況ヲ視察シ、各方面既知
 ノ要人ト會見シ、歸來後報告スルニ過キサル旨、事モ無ケニ語リタ
 ル後「萬一獨伊側カ英ニ破ルルカ如キコトアラハ、日本カ折角築キ
 上ケタル現在ノ地歩モ英米蘇ノ聯合壓迫ニ依リ維持困難トナルヘシ、

外
務
省

(日本標準規格B5)

IMT 630

16

此際ニ於ケル日獨關係ノ強化ハ、結局米國ヲシテ其ノ本來ノ勢力範圍タル米大陸ニ歸ラシメ、夫レ丈ケ日支事變ノ解決ヲ容易ナラシムヘシ、又日本カ此際毅然タル態度ヲ示スニ於テハ、對米經濟關係ハ却テ好轉スヘシ、獨自身ノ經驗ニ依レハ、協調外交ニノミ依リタル當時ハ、對外經濟上種々困難シ居タルモ、強硬政策ニ出テタル今日事態ハ却テ好轉セリ、獨逸カ目下死活ノ大鬭争ヲ爲シ居ル際、各國ノ對獨態度ハ、獨逸トシテ戰後ニ在リテモ永ク忘ルルコトヲ得サル所ナリト語りタル上、「昨年ノ日獨伊樞軸強化商議ノ經緯ニモ鑑ミ、今回ハ日本側ヨリ何等カノ提案ヲ得度シ」ト述ヘタリ、於是來栖大使ヨリ東亞及歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關スル相互援助ノ原則的私案ヲ開陳シタルモ、向フハ引ツ付キ來ラス、其儘トナリ、「ス

外務省

ターマー」公使ノ使命ニ付キテハ前記以外何等言及ヲ避ケタリ越テ八月二十九日駐露東郷大使ハ「スターマー」トノ長時間ニ亘ル會談ノ結果、同人渡日ノ上ハ、我國ノ外交方針ヲ突止メ、若シ日本ニ於テ希望アラハ、政治協定締結ニ資セントスルモノト認メラルル旨ノ來電アリ

前記兩大使ヨリノ電報及其他ノ事情ニ依リ、獨逸側ニ樞軸強化ノ底意アルヲ明知シタルト同時ニ、「スターマー」公使ノ使命カ何レニ存スルヤヲモ察知シタリ、殊ニ同公使ノ本邦滞在期日カ三週間ノ永キニ亘ルコト、健康モ餘リ勝レサル夫人ヲ同伴シ、特ニ「カムフラード」シ居ルコト、及、同人ハ「リッペントロップ」外相ノ懷刀トシテ、最モ信用アル側近者ノ一人ナルコト等ヨリ見テ、同人特派ノ

外務省

目的ハ「リッペントロップ」ノ來栖大使ニ對スル言ノ如キ單ナル日
 本ノ政治狀況視察ニ非スシテ、日獨伊樞軸強化ニ付キ相當重要ナル
 交渉ヲ爲サントスルモノタルハ、殆ント疑ナキモノトナレリ
 是ニ於テ松岡外相ハ日獨伊樞軸強化ノ氣運ノ濃化シ、三國間ニ取急
 キ開談ヲ要スル時機ニ達シタリト認メ、八月三十一日白鳥、齋藤兩
 顧問、大橋次官、西歐亞局長ヲ私邸ニ招致シ、前記外、陸、海三省
 事務當局ノ作成シタル方針案ヲ檢討修正シタル上、樞軸強化ニ關ス
 ル基本要綱案（左記）ヲ作成シ、九月二日、四相會議ニ附議シタリ
 其際大綱ニ付キテハ各相ノ意見略ホ一致シタルモ、海軍大臣ハ未タ
 全面的ノ贊意ヲ表スルニ至ラス、其後間モナク海軍事務當局ヨリハ、
 右要綱案ニ對シ種々修正ヲ申出テタリ、例ヘハ標題ニ「軍事同盟交

外務省

渉ニ關スル方針案」トアルヲ「日、獨、伊提携交渉ニ關スル方針案
 ト改メ、方針案別紙第三、日、獨、伊提携強化ニ對處スル基礎要件
 五ノ(二)ノ「若クハ我準備ノ成否ニ拘ラス國際情勢ノ推移最早猶豫ヲ
 許サスト認メタル場合」ノ字句ノ削除ヲ希望シタルノ類ナリ（註）
 （註）左記黒字ノ部分ハ事務當局案、朱書部分ハ松岡外相ノ自ラ
 加筆訂正シタルモノナリ

外務省

B-0061

(左記)

日獨伊樞軸強化ニ關スル件
日獨伊三國ノ提携強化ノ氣運最近頗ル濃化シ此際三國間ニ取
キ開談ヲ要スル時機ニ達シタリト認メラルルニ付左記基本要綱
ニ基キ差詰メ獨逸側ト接衝致度

外務省

要綱

一 三國間ニ歐羅巴及亞細亞ニ於ケル新秩序建設ニ付凡有ル方法
ヲ以テ相互ニ協力ヲ與フル爲原則的協定ヲ遂グ
ニ右協力ノ最善ノ方法ニ關シ出來得ル限り短期間ニ三國間ノ協
議ヲ行フ
ニ差當リ三國共同聲明トシテ前二項ノ趣旨ヲ内外ニ公表ス

外務省

B-0061

説 明 書

獨逸政府ハ今般「スターマー」公使ヲ本邦ニ特派スルニ至レル
 處右ハ單ニ當方情勢ノ探查ヲ目的トスルヤモ知レサルモ同人ハ
 「リ」外相ニ特別信用アル人物ニモアリ此際我方トシテ一段踏
 込ンデ日獨伊樞軸強化ニ關シ話ヲ始ムルヲ適當トスベク差當リ
 別紙要綱一、二ノ如キ共同聲明ヲ發スルコト内外ノ情勢ニ顧ミ
 喫緊ナリト認ム

右聲明ハ凡有ル方法ヲ以テ相互ノ新秩序ノ建設ニ協力スル趣旨
 ナルヲ以テ必要ノ場合皇國トシテ兵力ノ行使ヲモ決意セザルベ
 カラス尤モ英國ノ關スル限り獨逸トシテ直チニ我方ノ武力協力
 ヲ必要トセザルヤモ測ラレズ然ル場合ニハ主トシテ米國ヲ目標

外 務 省

トスルコトトナルベク蘇聯ノ問題モ素ヨリ議ニ上ルベキ處何レ
 ノ途我方トシテ武力行使ノ決意ヲ爲スニ非ズンバ獨逸側トノ話
 合ハ不可能ナルベシ而シテ右共同聲明ハ畢竟豫備的ノモノニシ
 テ引續キ軍事協力ノ交渉ニモ入ルヲ適當トスベク要綱第二項ノ
 最善ノ方法ニ關シ協議ストハ結局軍事協力交渉ヲ意味ス

尙右交渉ハ別紙方針案ニ基キ處置セントスルモノナリ

外 務 省

B-0061

軍事同盟交渉ニ關スル要綱

一 皇國ト獨伊トハ世界新秩序建設ニ對シ共通の立場ニ在ルコトヲ確認シ各自ノ生存圈ノ確立及經綸ニ對スル支持及對英、對蘇、對米政策ニ關スル協力ニ付キ相互ニ了解ヲ遂ク（別紙第一）

註、右基本的了解ニ基キ更ニ日獨伊間又ハ日獨、日伊間ニ

所要ノ協定ヲ行フモノトス

ニ現在日獨伊各國カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ニ關スル相互支持協力ニ關シ右基本的了解ト共ニ速カニ了解ヲ遂ク

（別紙第二）

三前記（一）及（二）ノ交渉ハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎

外務省

要件ヲ体シ且別紙第四交渉方針要領ニ基キ行フ

四以上ノ了解ハ必スシモ協定ノ形式ヲ執ルヲ要セサルモ獨伊ノ希望アルニ於テハ協定トスルヲ妨ケス

外務省

B-0061

軍事同盟交渉ノ方針案
日獨伊提携強化ニ關スル件

昭和十五年八月六

一、方針

一、帝國ト獨伊トハ世界新秩序建設ニ對シ共通の立場ニ在ルコトヲ
確認シ相互ニ其ノ生存圈ノ確立及經綸ニ對スル支持及對英、對蘇對米
政策ニ關スル協力ニ就キ了解ヲ遂ク（別紙第一）

二、要領

一、帝國ト獨伊間ニ於テ右方針ニ基ク基本的了解ヲ遂ク（別紙第
一）
註、右基本的了解ニ基キ更ニ日獨伊間又ハ日獨、日伊間ニ
所要ノ協定ヲ行フモノトス

外務省

ニ現在日獨伊各國カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ニ關ス
ル相互支持協力ニ關シ右基本的了解ト共ニ速カニ了解ヲ遂ク
（別紙第二）

三、右實施ハ左ノ各項ニ依ル

- イ、前記(一)及(二)ノ交渉ハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル
基礎要件ヲ体シ且別紙第四交渉方針要領ニ基キ行フ
- ロ、前記(一)ハ伯林及羅馬ニ於テ實施ス
- ハ、前記(二)ハ(一)ト共ニ一併伯林及羅馬ニテ提案シ其ノ具体的
交渉ヲ東京ニ於テ行フ
- 四、以上ノ了解ハ必スシモ協定ノ形式ヲ執ルヲ要セサルモ獨伊ノ
希望アルニ於テハ協定トスルヲ妨ケス

外務省

B-0061

別紙第一

日獨伊提携強化ノ爲ノ基本トナルヘキ政治的了解事項

一 日本及獨伊兩國ハ現在其ノ實現ニ努力シツツアル世界ノ新秩序建設ニ關シ共通ノ立場ニ在ルコトヲ確認シ公正ナル世界平和ヲ助成増進スル爲相互協力ス

二 日本及獨伊兩國ハ夫々新秩序建設ノ爲南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル日本ノ生存圈並歐洲及阿弗利加ニ於ケル獨伊ノ生存圈ヲ相互ニ尊重シ右地域ニ於ケル新秩序建設ニ對シ相互ニ支持ヲ與

三 日本及獨伊兩國ハ相互ニ密接ナル經濟的協力ヲ行フ

外務省

之カ爲^{各自}ノ生存圈内ノ所在^{物資}ノ優先的相互交易並ニ技術ノ交換ヲ行フト共ニ夫々^{各自}ノ生存圈内ニ於ケル^對樹手國ノ經濟的活動ニ付好意的考量ヲ加フ

四 日本及獨伊兩國ハ「ソ」聯トノ平和ヲ維持シ且「ソ」聯ノ政策ヲ兩者共通ノ立場ニ副ハシムル如ク利導スルコトニ協力ス
(尙獨伊ト交渉ノ際先方ニ希望アルコト判明シタルトキ、右ノ外更ニ日本又ハ獨伊ノハト共ニ其ノ一方カ蘇聯ト戰爭狀態ニ入ル危險アル場合ニハ
ニ付テモ了解ヲ遂クルコトトス)

五 日本及獨伊兩國ハ米國ヲシテ^{西半球及米國ノ領地}米大陸以外ノ方面ニ容嗽セシメサルト共ニ之ニ對シ兩者ノ政治的^及經濟的^及利益ヲ擁護スル爲相互協力ス又其ノ一方カ米國ト戰爭狀態ニ入ル危險ナル場合ニ他ノ一方ハ凡ニル方法ヲ以テ之ヲ援助ス
ハ兩者ハ執ルヘキ措置ニ關シ協議スルコトトス

外務省

B-0061

日本及獨伊兩國ハ中南米ニ對スル施策ニ關シ緊密ニ協力ス
備考 本了解ハ祕密トス

外務省

別紙第二

日本及獨伊兩國ノ歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力ニ關スル了解事項

一 日本及獨伊兩國ハ現在兩者カ夫々直面シアル支那事變及歐洲戰爭ノ解決ニ方リ左ノ如ク相互ニ支持協力ス

日本ハ

(イ) 獨伊ノ希望スル南洋ヲ含ム東亞(資源及)取得ニツキ獨伊ノ希望ニ對シ(取得ニツキ獨伊ノ希望ニ對シ)得ル限り便宜ヲ供與ス

(ロ) 南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル英國ノ勢力ニ對スル壓迫ヲ強化スルト共ニ獨伊ノ對英戰爭遂行ヲ容易ニスル爲爲シ得ル限り協力ス

外務省

B-0061

3376

別紙第三

皇大 日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件
一 帝國ノ東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圏ニ就テ

(1) 獨伊トノ交渉ニ於テ帝國ノ東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圏ト

シテ考慮スヘキ範圍ハ

日滿支ヲ根幹トシ、舊獨領委任統治諸島、佛領印度及同太
平洋島嶼、泰國、英領馬來、英領「ボルネオ」、蘭領東印
度、「ビルマ」、(濠洲、新西蘭)並ニ印度等トス但シ交
渉上我方カ提示スル南洋地域ハ「ビルマ」以東蘭印、「ニ
ユーカレドニア」以北トス尙印度ハ之ヲ一應「ソ」聯ノ生
存圏内ニ置クヲ認ムルコトアルヘシ
(2) 我方ノ意向ヲ反映セシムルコトトス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

34

3376

獨伊ハ

(1) 日本ノ希望スル機械類等ノ供給並ニ技術ノ援助ニ關シ爲シ
得ル限り協力ス
シ得ル限りノ政治的及經濟的協力ヲ爲ス

(2) 支那事變解決ノ爲協力ス

備考

本了解ハ祕密トス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

33

B-0061

(イ) 帝國ノ委任統治ニル舊獨領諸島ハ我領土ニ併合スル措置ヲ講スルト共ニ太平洋ニ於ケル英ノ舊獨領委任統治諸島ハ對米戰略上ノ必要ヨリ努メテ帝國ノ支配下ニ歸スル如ク處理ス

(ロ) 蘭領東印度ハ獨立態勢ニアラシムルヲ目途トスルモ、政治上及經濟上ノ優越的地位ヲ認メシムルモノトス

右ニ關シ萬一獨逸ノ提案ト相觸ルルコトアル場合ニ於テモ蘭印所產資源ノ優先的供給、蘭印ニ於ケル獨逸人ノ既存經濟經營繼續ニ關スル保障其他全般ニ於ケル政治轉折衝ニ依リ蘭印ニ於ケル帝國ノ政治的指導權ヲ認メシムルコトトス

(ハ) 佛領印度支那ニ關シテモ同シ

外務省

(イ) 濠洲及新西蘭ハ其他ノ地域トハ其間幾分ノ逕庭ヲ存スルモ帝國ノ關心ヲ有スル所ナルコトニ差異ナク、從テ之カ更ニ東亞以外ノ國ノ領土或ハ管理ニ變更セララルルヲ欲セス

(ロ) 印度ニ關シテモ概ネ同シ

ニ日獨伊三國ノ經濟協力ニ就テ

(イ) 交易ニ關シテ帝國ハ日滿支三國ノ農林水產物等ヲ供給スルノ外支那、佛印、蘭印等ノ特殊鑛產物及「ゴム」等ノ供給ニ付協力ヲ與フヘク獨伊ハ帝國ノ必要トスル技術ノ援助及航空機、機械類化學製品類等ノ供給ヲ爲ス

相互經濟的活動ニ關シテハ帝國ハ特ニ支那及滿洲ニ於テ事實上獨伊ノ爲優先的取扱ヲ爲シ其技術及施設ヲ參加セシム

外務省

B-0061

3376

(ロ)右目的ノ爲夫々經濟協定、貿易協定及支拂協定ヲ締結ス
 三 日獨伊三國ノ對「ソ」及對米協力ニ關スル^皇帝國ノ態度ニ就テ
 世界カ東亞、「ソ」聯、歐洲及米洲ノ四大分野ニ分ルルヲ豫
 見セラルル戰後ノ新態勢ニ於テ東亞ノ指導者ヲ以テ任スル^皇
 國ハ歐洲ノ指導勢力タル獨伊ト密接ニ提携シ
 (イ)「ソ」聯ヲ東西南南方面ヨリ牽制シ、且之ヲ日獨伊共通ノ立
 場ニ副フ如ク利導シテ其勢力圈ノ進出方面ヲ日獨伊三國ノ
 利害關係ニ直接影響少キ方面例ヘハ波斯灣ニ^場向フ方面ニ^依指
 ハ印度方面ニ對スル「ソ」聯ノ進出ヲ^認認ムルコトアルヘシ
 向^ハシムル如ク努ムルト共ニ
 (ロ)又米國ニ對シテハ力メテ平和的手段ヲ以テスヘキモ東亞及
 歐洲分野ノ政治的、經濟的提携ニ依リ所要ニ應シ米國ニ對

外務省

3376

シ壓迫ヲ^加指洩^ヘ得ルノ態勢ヲ構成シ以テ^皇帝國ノ主張ヲ貫徹
 スルニ寄與セシムル如ク策ス
 右施策ニ際シ努メテ「ソ」聯ヲ利導スルコトヲ考慮ス
 且又獨伊ハ現在南米ニ相當ノ移民ト經濟的地歩トヲ有スル
 ヲ以テ將來^皇帝國ノ米國ニ對スル諸般ノ施策ニ之ヲ利用ス
 四 日獨伊三國ノ^排對英協力ニ關スル^皇帝國ノ態度ニ就テ
 (イ)^皇帝國ハ東亞新秩序建設^上爲、南洋ヲ含ム東亞ニ於テ英國ノ
 政治的^及經濟的^的權益ヲ排除スル爲狀況ニ應シ諸施策ヲ講ス
 (右施策ハ英國ノ地位ヲ薄弱化スルモノニシテ現ニ支那ニ
 於ケル^皇帝國ノ對英政策力自ラ歐洲戰場ニ有效ニ影響シ居ル
 コト事實ノ示ス所ナリ)

外務省

B-0061

皇
 (ロ) 帝國ハ更ニ獨伊ノ對英戰爭ニ一層協力スル爲獨伊ノ希望ス
 及物資 付テ獨伊兩國ノ希望ニ
 南 南洋ヲ含ム東亞所在資源ノ取得ニ對シテ協力ヲ惜マス、
 又東亞ニ於ケル英國權益ノ排除、示威及宣傳ニ依ル協力ヲ
 領國ノ 領及殖民地ノ獨立運動支援等獨伊ノ對英戰爭ニ關シ一層ノ
 協力ヲ爲ス

英 對
 對英武力行使ニ關シテハ左ノ諸項ニ依リ自主的ニ決定ス

- (一) 支那事變處理概ネ終了セル場合ニ於テハ内外諸般ノ情勢
 之ヲ許ス限リ好機ヲ補促シ武力ヲ行使ス
- (二) 支那事變ノ處理未タ終ラサル場合ニ於テハ開戰ニ至ラサ
 原則トシテ
 ル限度ニ於テ施策スルモ内外諸般ノ情勢特ニ有利ニ進展
 スルニ至ラズ武力ヲ行使スルコトナリ

外務省

○カ若クハ我
 準備ノ成否
 ニ拘ラス國
 際情勢ノ推
 移最早猶豫
 フ許サスト認
 メラルル場合△

(三) 内外諸般ノ情勢トハ支那事變處理ノ狀況ノ外歐洲情勢特
 ニ對「ソ」國交調整ノ狀況米國ノ我ニ對スル動向及我戰
 爭準備等ノ諸件ヲ指スモノトス

外務省

B-0061

別紙第四

交渉方針要領

一 本提携強化具現ノ爲ニハ獨伊カ全力ヲ舉ケテ英國打倒ニ邁進シオル今ノ機會ヲ逸スヘカラス獨伊ノ戰勝確定後右折衝ヲ開始スルコトトナラハ其ノ效果ハ極メテ減少セラルルニ至ルヘキノミナラス南洋ニ關シテ相當ノ關心ヲ有スル獨逸ノ態度ニモ亦何等カノ變化ヲ來ス虞ナシトセサレハナリ

本件交渉ニ付テハ獨伊各別ニ行フモノトス、但獨伊側ヨリ三國間ノ交渉ヲ希望シ來ル場合ニハ之ニ應スルモ可ナリ

ニ 歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力關係ノ了解ハ獨伊ニ關スル提携強化ノ提議ノ際基本的了解ト同時ニ提案シ其ノ

外務省

内容ニ付テノ討議ハ東京ニ於テ之ヲ行フコトトスルモ前記ニ了解ハ一體不可分トス

一 獨伊ヲシテ帝國ノ南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル生存圏ヲ承認尊重セシムヘキ別紙第一(一)ノ交渉ニ於テハ南洋ヲ含ム東亞全般ニ付包括的ニ帝國ノ政治的指導權ヲ認メシムルコトヲ主眼トス

但獨伊側ヨリ特定地區ニ何等留保的態度ニ出ツル場合ニハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件ノ(一)ノ(四)項以下ヲ

體シ右地區ニ付具體的折衝ヲ行ヒ之ヲ容認セシム

二 獨伊側ヨリ對英(米)軍事的協力ニ關シ希望シ來タル場合ニ於テハ帝國トシテハ原則トシテ之ニ應スルノ用意アルモ我現狀ニ鑑ミ武力行使即チ參戰ニ關シテハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對

外務省

B-0061

處スル基礎要件第四項(一)(二)(三)ノ如ク考慮シタル點ヲ説明
諒解セシムルト共ニ獨伊側ヲシテ帝國ノ對英開戰ニ關スル内
外諸般ノ情勢改善ニ關シ我ニ協力セシムル如クスルモノトス

外務省

斯クテ本件ハ主トシテ海軍側ノ慎重態度ニ因リ、一時稍々停頓ノ姿
トナリタルカ、越テ九月五日吉田海相病氣ノ故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シ、
及川大將海軍大臣トナル、此日定例閣議ノ後引續キ總理、外、陸、
海四相會議ヲ開催シ、席上松岡外相ハ本件ノ經過ヲ詳述シタル上、
三國同盟締結以外ニ難局打開ノ方策ナキコトヲ強調説明シタリ、海
相ハ之ヲ聞キ終リタル後、暫ラク沈思ノ末、下僚ノ意見ヲ徵スルコ
トモナク、國務大臣トシテノ自己ノ責任ニ於テ、即座ニ之ニ同意ヲ
表シタリ、是ニ於テ停頓ハ忽チ打解セラレ、松岡外相ノ提案ハ四相
全部ノ同意スル所トナレリ、元來本件ニ付テハ頭初ヨリ陸、海兩相
間ニソリノ合ハサル所アリ、陸軍側ハ全面的ニ且強硬ニ同盟ニ贊成
シ、海軍側ハ兎角ニ之ヲ遲疑スルノ風アリ、松岡外相ハ此間ニ處シ、

外務省

B-0061

兩者ノ意見ヲ合致セシムル爲メ、努力甚タ切ナルモノアリタルハ、
 茲ニ特記ヲ要スル事項ナリ
 以上ノ如クニシテ日、獨、伊三國同盟條約締結ニ對スル四相ノ意見
 ハ纏マリタリ、然レトモ事ノ極メテ重大ナルノミナラス、統帥府ノ
 權限トモ亦密接不可離ノ關係ニ在ルヲ以テ、九月十九日內閣ト大本
 營トノ聯合會議ヲ開催シ、閑院參謀總長官、伏見軍令部長官御臨席
 近衛首相、松岡外相、東條陸相及川海相等參列シ、慎重審議ヲ重ネ
 タル末、愈々前記四相會議決定案ニ依リ、先ツ獨逸側トノ交渉ヲ進
 ムルコトニ決定シタリ、於是松岡外相ハ「スターマー」公使着京ノ
 日ヲ待ツト同時ニ、樞軸強化及同公使ノ行動ニ關スル新聞掲載ヲ禁
 止シタリ

外務省

「スターマー」公使ハ八月二十三日伯林ヲ出發シ、急遽「モスコ」
 ヲ經、九月七日朝東京ニ着シタリ、然レトモ松岡外相ハ既述ノ理由
 ニ依リ故ラ同公使ニ此方ヨリ進ンテ會見ヲ求ムル等ノコトナク、徐
 ロニ先方ノ出方ヲ見守リ居タル處、九日ニ至リ先方ヨリ會見ヲ申出
 テタルヲ以テ、愈々機到レリトシ、人目ヲ避クル爲メ、同日千駄谷
 私邸ニ於テ同公使及「オット」大使ト會見シ、意見ノ交換ヲ行ヒ、
 十日再會シ、松岡外相提出ノ私、試案ニ付質疑應答ヲ重ネ、十一日
 三度目ノ會見及其後數次會見ノ末、茲ニ條約及附屬交換文書ニ付キ
 彼我ノ合意全ク成立シ、九月二十四日午後七時二十五分條約實質ニ
 關スル交渉ヲ終了シタリ
 本件交渉ノ經過左ノ如シ

外務省

B-0061

3376

第二 交渉経過

九月九日

「オット」大使「スターマー」公使始メテ千駄ヶ谷松岡私邸ニ於テ同相ト會見シ、日獨伊樞軸強化ニ關シ、種々意見ヲ交換シ、兩者ノ見解略ホ一致シ、早クモ三國同盟條約締結ノ主義ヲ決定シタリ（此ノ日ノ會談要旨ハ後掲十三日松岡外相ヨリ先方ニ手交シタル英文會談要録ニ掲記セラルルヲ以テ之ヲ省ク）

九月十日

「オット」大使及「スターマー」公使松岡私邸ヲ來訪、前日ニ引續キ質疑應答ヲ重ネタル後、（此日會談ノ要旨ハ後掲十三日松岡外相ヨリ先方ニ手交シタル會談要録ニ記載セラル）松岡外相ハ個

外務省

(日本標準規格B5) IMT 630 47

3376

人タル外務大臣以外何人ヲモ拘束スルモノニ非サル旨ヲ附言シテ、私、試案ヲ先方ニ提出シ、之ヲ以テ商議ノ基礎タラシメンコトヲ求メ、各項ニ付キ詳細説明スル所アリ、先方ニ於テハ九、十兩日ノ會談ニ於テ既ニ了解済ミノコトニモ有リ、主義上何等異議ナク、右案ニ付テハ更ニ考究ノ上何分ノ回答ヲ爲スヘキヲ約ス、右外務大臣私、試案左ノ如シ

外務省

(日本標準規格B5) IMT 630 48

B-0061

Handwritten notes in a box:
Document 2/12
Dec. 1941
G.M. J.
Dec. 1941
G.M. J.
Dec. 1941
G.M. J.

3376

Tentative Formula

I. Japan to recognize and respect the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

II. Germany and Italy to recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

III. Japan, Germany and Italy to agree mutually to cooperate in their efforts on aforesaid lines and to consult with one another as to the suitable and effective means to remove and overcome any and all obstacles and hindrances to the achievement of their respective aims.

IV. Japan, Germany and Italy to agree to pull together and co-ordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet the changed and changing world conditions, which alone can be a just and durable foundation for peace.

外務省

B-0061

Tentative Formula

I. Japan to recognize and respect the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

II. Germany and Italy to recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

III. Japan, Germany and Italy to agree mutually to cooperate in their efforts on aforesaid lines and to consult with one another as to the suitable and effective means to remove and overcome any and all obstacles and hindrances to the achievement of their respective aims.

IV. Japan, Germany and Italy to agree to pull together and co-ordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet the changed and changing world conditions, which alone can be a just and durable foundation for peace.

外
務
省

B-0061

3376
376

猶ホ其際松岡外相ヨリ太平洋諸島ニ於ケル舊獨領諸島ノ處置問題ニ付開談シ、日本委任統治地域ハ無償ニテ、其他ノ舊獨領諸島ハ有償ニテ、日本側ニ讓渡方ヲ申入レ、先方ハ右委任統治地域ニ關スル獨逸政府ノ見解ヲ審カニセサルヲ以テ請訓スヘシト應答ス猶ホ其際松岡外相ハ大東亞ノ地域ニ關スル説明ヲ加ヘ、右ハ今後形勢ノ推移ニ依リ擴大セラルヘキモノナルモ、大槪ミニ曰ヘハ、濠洲及「ニュー、ヂーランド」以北ノ東亞ノ全地域ヲ指スモノナルコトヲ告ケタリ、之ニ對シ先方ハ同意ヲ表シ、獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ之ヲ認ムルモ、獨逸國及其ノ國民ノ右地域内ニ於ケル經濟活動、例ヘハ通商、企業、原料取得等ニ對シ、出來得ル限りノ便宜ヲ供與セラレ度シト申出テタルヲ以テ、

外務省

(日本標準規格B5) IMT 630 50

3376

松岡外相ハ同地域内ノ經濟開發ニ付キテハ、日本モ亦獨伊ノ協力ヲ期待スト應酬ス

九月十一日

午前十時、「オット」大使及「スターマー」公使松岡私邸來訪ノ上、同官等限りノ私案ニシテ獨逸政府ヲ拘束スルモノニアラサル旨ヲ附言シテ獨逸側第一次案ヲ提出ス、即チ左ノ如シ、(黒線ヲ附シタル部分ハ我方第一次提案ト相違スル點ナリ)

外務省

(日本標準規格B5) IMT 630 51

B-0061

Tentative Formula.

- I. Japan to recognize and respect the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy to recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy to agree mutually to cooperate and to consult in their efforts on aforesaid lines and to assist one another with all political, economical and military means when one of the three powers concerned will be attacked by a power not included in the present European war or the Japanese-Chinese conflict.
- IV. Japan, Germany and Italy to agree to pull together and coordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet the changed and changing world conditions which alone can be a just and durable foundation for peace.

外
務
省

B-0061

前記獨逸側第一案ハ我方第一次案ト實質ニ於テ相違スル所ナク、唯第三項ヲ別個ノ形式ニ改メタルニ過キス、即チ右獨逸案第三項ハ松岡外相私、試案第三項前段掲記ノ大東亞及歐洲ニ於ケル新秩序ノ建設ニ關スル相互援助ノ原則ニハ何等變更ヲ加ヘス、唯後段ニ「前記締約國各自ノ目的達成ニ對スル障害除去云々」トアルヲ改メテ、「締約國カ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラサル一國ニ依リ攻撃セラレタル場合軍事上、政治上及經濟上ノ手段ニ依リ相互ニ援助云々」ト改メタルノミニテ、他ノ部分ハ松岡外相私、試案ヲ其儘繼承シタルモノナリ、即チ兩案ニハ原則的ニハ何等相違スル所ナク、唯獨逸側第一次提案ハ本條約カ主トシテ米國ヲ目標トシタル同盟條約ナルコトヲ明確ナラシメタルニ止マレリ、右

外務省

ハ我方ノ既定方針ニ合致セルヲ以テ、外相ハ之ニ同意ヲ表シ、交渉僅カニ三回ニシテ條約ノ基本條項ハ早クモ決定シタリ、其際松岡外相ハ九日及十日兩日外務大臣ト「オット」大使及「スターマー」公使トノ間ノ談話中、外務大臣ノ了解シタル要點ヲ覺書(英文)トシテ讀ミ上ケ、先方其ノ正確ナルヲ確認シタルヲ以テ、寫一部ヲ「スターマー」公使ニ手交ス、左ノ如シ

外務省

B-0061

U.S. will not enter the war, she cannot take chance.

4. Germany hardly thinks that she and the U.S. will come to blows in the near future, but that the clash and war between Japan and the U.S. cannot eventually be avoided.
5. It is, so Germany believes, to the mutual advantage of both, Japan and Germany (of course Italy to be included) to enter into an understanding or agreement, whereby they will be thoroughly prepared effectively to meet emergency, at any moment. This can only prevent, if anything can prevent, America from entering the present war, or entering into an armed conflict with Japan in the future.
6. A strong and determined attitude, unequivocal and unmistakable, on the part of the three nations.

Strictly Confidential

Some of The Salient Points in the informal Conversations between Matsuoka and Stahmer, with the German Ambassador Assisting.

1. Germany does not want the present conflict develop into a World War, and wishes to bring it to termination as quickly as possible. She particularly wants the United States to stay out.
2. Germany does not look for Japan's military assistance at this juncture in connection with her war with England.
3. What she wishes of Japan is to have Japan play the role of restraining and preventing the U. S. from entering the war, by all means. Although Germany thinks at present that the U.S.

3376

Italy) will do everything in her power to restrain the U.S. on the Atlantic and will at once start supplying Japan with as much of the war equipment (such as aeroplanes, tanks and other war tools with men even, if Japan wishes it) as she can reasonably spare, and will otherwise help herein every possible way. (Matsuoka remarked that these things might and in fact will have to be left to a sort of mixed military and naval commission of the Axis, granted that Japan joins the Axis in the sense and in the way Germany wants.)

- 9. Of course, Germany recognizes and respects the political leadership ^{of Japan} in Greater East Asia. All she wants in these regions is of economic nature, and she is ready to cooperate with Japan to further her ^{aims} ~~aim~~. Naturally she looks

外
務
省

IMT 630

58

3376

nations, Japan, Germany and Italy, and the knowledge of it by the U.S. and the world at large at this juncture, that alone can only be of a powerful and effective deterrent on the U.S.A. A weak, lukewarm attitude or declaration at this juncture will only invite derision and danger.

- 7. Germany hopes Japan will also size up the situation, and will realize the magnitude and the reality of the potential (may be impending, who knows) danger coming from the Western Hemisphere, and will act quickly and decisively to forestall it by reaching an agreement between the three (Japan, Germany and Italy) of such a nature that neither the U.S. nor the rest of the world would be left in doubt, conjecturing.
- 8. Hardly necessary to say that Germany (and Italy)

外
務
省

IMT 630

57

B-0061

3376

the worst emergency, Germany will, on the other hand, make use of every means in her power to prevent the clashing between the U. S. and Japan, and even to improve the relations between the two, if it is humanly possible.

12. Germany, in asking Japan to join the Axis in the fullest sense of the world and that quickly, before the war against England closes, is taking a long view of carrying on stupendous struggle against the British Empire, not to say the Anglo-Saxondom including America. The present war may end before long, but this great struggle will go on for tens of years yet, in one form or another. (Matsuoka emphasized this phase). Let the three (Germany, Italy and Japan) stand together knitted very closely until

IMT 630 60

外
務
省

3376

looks to Japan to do her best to accommodate German enterprises and to enable Germany to obtain in these regions materials she needs and may need.

10. Better to reach agreement between Germany, Italy and Japan first and then immediately to approach Soviet Russia. Germany is prepared to act part of an honest broker on the question of rapprochement between Japan and Soviet Russia, and she can see no unsurmountable obstacle on the path, may be settled without much difficulty. German-Soviet relations are good, contrary to what the British propaganda tries to represent, and Russia is carrying out to the satisfaction of Germany all her engagements.
11. Despite the fact that the Axis (including Japan) must be thoroughly prepared to meet the

IMT 630 59

外
務
省

B-0061

until the great aim is finally achieved.

13. As to when Italy should be asked to join in the present discussion, the German Foreign Minister will consider and let the Japanese Foreign ~~Minister will consider~~ and let the Japanese Foreign Minister know. The German Government has not yet conferred with Italy. Neither Stahmer nor anyone on the German side has seen the Soviet official on the matter.
14. Stahmer's words may be regarded as coming directly from Ribbentrop.
15. The Japanese Foreign Minister also made observation on several points, but they are not noted here.

外
務
省

B-0061

3376

九月十四日

午前「オット」大使及「スターマー」公使松岡邸來訪、伯林ヨリ
ノ訓令ニ依リ獨逸側第二次案ヲ提出ス
此案ノ獨逸側第一次案ト異ナルトコロハ、第三項ノ攻撃云々ニ關
シテ *openly or in a concealed form* ノ字句ヲ挿入シタルコト、本條
約カ締約三國トノ間ニ現存スル「ソ」聯トノ政治的地位ニ何等影
響ナシトノ趣旨ノ第五項ヲ挿入シタルコト、及、第六項ニ細則ニ
關シテハ追テ條約締結ヲナスヘキ旨ノ規定ヲ設ケタルコトナリ
獨逸側第二次提案左ノ如シ（獨逸側第一次案トノ相違點ニ「アン
ダーライン」ヲ附ス）

外務省

日本標準規格B5PM 630

62

B-0061

3376

meet the changed and changing world conditions, which is alone a just and enduring foundation of peace.

V. Japan, Germany and Italy agree that the aforesaid terms do not in any way affect the present political status between the three aforementioned Powers and Soviet Russia.

VI. Japan, Germany and Italy will, without delay conclude a treaty laying down the details of the application of the aforementioned terms.

外
務
省

IMT 630

64

3376

I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order on Greater East Asia.

III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three powers concerned will either openly or in a concealed form be attacked by a power at present not included in the European war or in the Japanese-Chinese conflict.

IV. Japan, Germany and Italy agree to cooperate and to coordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet

外
務
省

IMT 630

63

B-0061

右ニ關スル先方ノ説明ニ依レハ、第三項ニ openly or in a concealed form ノ字句ヲ挿入シタルハ、寧ロ日本ノ利益ヲ考慮シタルニ依レリ、例ヘハ米國カ英國トノ祕密協定ニ依リ、太平洋方面ノ重要地點ヲ占據シ、又ハ新嘉坡ニ艦隊ヲ入レタルカ如キ場合ヲ豫想シタルカ爲メナリトノコトナリシカ、右ニ對シ松岡外相ハ米國カ歐洲戰場ニ接近セル地點、例ヘハ地中海ニ在ル英國ノ重要ナル地點ヲ占據シタルカ如キ場合ヲモ含ムヤト尋ネタルニ、先方ハ然リト答ヘタリ、於是松岡外相ハ「攻撃ヲ先方提案ノ如ク公然ト陰密トノ二ツニ分ツト否トニ拘ハラズ、攻撃アリヤ否ヤノ事實ハ結局締約三國ノ協議ニ依リテ決定セラルヘキモノニシテ、獨逸側第二次案第三項中ノ「公然又ハ陰密ニ」ノ字句ハ有ツテモ無クテモ結局

外務省

同様ノモノナルヲ以テ、右字句ヲ削除スル方可ナリト思考スルニ付、伯林ニ請訓セラレタシト告ケ、先方ハ之ヲ承諾ス
又松岡外務大臣ハ條約本文ノ施行ニ關スル條約締結ニ關スル獨逸側第二次案第六項ヲ附屬ノ文書ニ移シテ之ヲ本條約ヨリ除キ、其他ノ施行細則的事項ヲモ加ヘテ議定書案ヲ作成スルヲ可トスト告ケ、先方之ヲ承諾シ、我方ニテ案文作成ノコトニ協議決定ス
同日總、外、陸、海四相會議ヲ開キ松岡外務大臣ヨリ從來ノ會談経緯ヲ報告ス

九月十五日

午後齋藤顧問依命「オット」大使ヲ往訪、獨逸側第二次提案ニ修正ヲ加ヘタル我方第三次案ヲ手交ス、修正ノ要點ハ(1)第三項ノ

外務省

B-0061

3376

either openly or covertly フ削除スルコト、(イ)第四項ハ之ヲ削除
 シ、其ノ趣旨ヲ敷衍シテ條約前文トスルコト、(ウ)第五項ヲ第四項
 トシ且ツ status ト between トノ間ニ which exists at present as
 フ加ヘ、political ノ前ノ present フ削除スルコト、(ニ)第六項ノ細
 則締結ノ規定ハ之ヲ削除シ、議定書中ノ一項トスルコト等ナリ
 前記我方第二提案左ノ如シ(獨逸側第二次案ト相違セル個所ニ黒
 線ヲ附ス)

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

67

B-0061

- I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three powers concerned is attacked (either openly or covertly) by a power at present not involved in the European war or in the Japanese-Chinese conflict.
- IV. Japan, Germany and Italy agree that the aforesaid terms do not in any way affect the (present) political status ^{which exists at present} between the three aforementioned powers and Soviet Russia.

外務省

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

I.

外務省

B-0061

3376

猶ホ右我方提案中ニハ第三項ノ「公然又ハ陰密ニ」攻撃セラレタルトキ云々ノ字句ヲ括弧内ニ存置セシメアルモ、右ハ嚮ニ我方ニ於テ削除ヲ要求シ、先方ヨリ伯林ニ請訓中ナルハ既述ノ通りナルカ、本日齋藤顧問ヨリ「オット」大使ニ對シ右ニ關シ「ベルリン」ヨリノ回訓有リヤ否ヤヲ尋ネタルニ、未タ接到セストノコトナリシニ付、右我方第二次案手交ノ際、括弧内ノ部分ハ未決ノモノナル旨ヲ念ノ爲メ附言ス

猶ホ其ノ際「オット」大使ハ、獨逸外務大臣「リッペン」トロツプ本日正午（獨逸時）羅馬ニ飛ヒ、「チアノ」伊太利國外相ト會見スル旨ノ電報ヲ接受シタルカ、用件中ニハ勿論日、獨、伊三國條約問題ヲ含ム、伊太利政府ハ本條約締結ニ何等異議無キ答ナリト

外務省

(日本標準規格B5) IMT 630 70

3376

語ル

九月十六日

午後依命齋藤顧問白鳥顧問ト共ニ「オット」大使ヲ往訪、十四日ノ會談ニ於テ我方作成ノコトトナリ居タル議定書日本文案各條ノ要旨ヲ英語ニテ口述シ、猶ホ右英譯出來次第送付スヘキコトヲ約ス

其際條約ノ有効期間ニ關スル先方ノ意向ヲ問ヒタルニ、獨、伊同盟條約其他カ十年ヲ有効期間トシ、且ツ更新規定ヲ設クルノ例ニ依リ度シト希望シ、當方ハ猶ホ研究スヘキ旨ヲ告ケ辭去ス

九月十七日

「オット」大使「スターマー」公使ト同道、松岡私邸來訪懇談ス、

外務省

(日本標準規格B5) IMT 630 71

B-0061

其際松岡外相ヨリ條約文ニ付キニ、三修正意見ヲ述ヘ、先方同意ス、即チ左ノ如シ

(イ) 前文 mutual prosperity ノ次ニ and welfare ノ二字挿入

(ロ) 第四條ノ Japan, Germany and Italy ノ次ノ agree ヲ affirm ニ改ム

(ハ) Japanese Chinese conflict ヲ Sino-Japanese conflict 改ム

九月十八日

午後二時齋藤顧問依命「オット」大使及「スターマー」公使ニ面會、條約案(前日ノ會談ニ基キ修正ヲ加ヘタル上、有効期限ニ關スル一項ヲ加ヘ且ツ後文ヲ附加シタルモノ)前日兩顧問ヨリ先方ニ讀ミ聞カセタル議定書案ノ英文譯、太平洋ニ於ケル舊獨領島嶼

外務省

ノ處置方ニ關スル交換公文案、日英衝突ノ場合ニ於ケル獨伊側ノ援助義務ニ關スル交換公文案ヲ手交ス、左ノ如シ(條約文中黒線ヲ附シタル部分ハ右修正又ハ追加個所ナリ)

外務省

B-0061

- I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three powers concerned is attacked (either openly or covertly) by a power and powers at present not involved in the European war or in the Sino-Japanese conflict.
- IV. Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political ^{status} which exists at present as between each of the three Contracting Powers and

外
務
省

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows;

外
務
省

B-0061

3376

Excellency:

I have the honour to state to Your Excellency that inasmuch as the German and Italian Governments recognize and respect the leadership of Japan in regard to the establishment of a new order in Greater East Asia, it is considered highly desirable by this Government that all the former German Colonies in the Pacific ^{re}Asia should be ceded to Japan, without compensation in the ^{case} ~~case~~ of the Group of Islands mandated by Japan and with proper compensation in the case of other mandated islands and those and in British possession. It is understood as a matter of course that Japan shall accord a specially ^{favourable} ~~favourable~~ treatment to the activities of Germany and her nationals in these regions as compared to any other nation or their nationals.

外
務
省

IMT 630

77

3376

- 2 -

and Soviet Russia.

V. The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at Tokio, the day of September, 1940.

外
務
省

IMT 630

76

B-0061

Excellency:

I have the honour to state that, while there admittedly prevails between Japan and England an atmosphere which may lead to an armed conflict. The Pact recently concluded between Japan, Germany and Italy makes no reference to this question.

The Japanese Government earnestly desire, as do the Governments of Germany and Italy, that the present European War will come to a speedy conclusion and shall on their part spare no effort in that direction. However, in the event of an armed conflict unfortunately occurring between Japan and Great Britain, it is earnestly desired to be understood that every possible form of assistance will be offered by Germany and Italy to Japan as such an offer is in accord with the spirit of the present Pact, if not expressly provided for in it.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

外
務
省

B-0061

日本國、獨逸國及伊太利國間三國條約（假譯）

大日本帝國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ
 萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルヲ以テ恒久平和ノ先決要件ナリト認
 メ大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ各右地域ニ於ケル當該民族ノ共存共榮
 ノ實ヲ舉ゲンガ爲新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ最高ノ目的
 ト爲ス各自ノ努力ニ付相互ニ提携シ且協力スルコトニ決シ
 更ニ三國政府ハ世界ノ爾餘ノ地域ニ於テ同様ノ努力ヲ爲サントスル
 諸國トモ協力シ以テ世界平和ニ對スル終局ノ希望ヲ實現センコトヲ
 欲シ
 左ノ通協定セリ

一日本國ハ獨逸國及伊太利國ノ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導

外務省

的地位ヲ認め且之ヲ尊重ス

一獨逸國及伊太利國ハ日本國ノ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指
 導的地位ヲ認め且之ヲ尊重ス

三日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ趣旨ニ基ク努力ニ付相互ニ協
 力スベキコトヲ約ス更ニ三締約國中何レカノ一國ガ現ニ歐洲戰爭
 又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ニ依リテ（公然ト又ハ陰密ニ
 攻撃セラレタルトキハ三國ハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法
 ニ依リ相互ニ援助スベキコトヲ約ス

四日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記各條項ガ三締約國ノ各ト「ソヴ
 イエト」聯邦トノ間ニ現存スル政治的狀態ニ何等ノ影響ヲモ及ボ
 サザルモノナルコトヲ確認ス

外務省

B-0061

其本條約ハ署名ト同時ニ實施セラレベク實施ノ日ヨリ十年間有効トス

右期間滿了前適當ナル時期ニ於テ締約國中ノ一國ノ要求ニ基キ締約國ハ本條約ノ更新ニ關シ協議スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ 年 月 日

ニ於テ本書三通ヲ作成ス

外務省

議定書(假譯)

本日日本國、獨逸國及伊太利國代表者ニ依リ署名セラレタル條約ニ關シ締約國間ニ左ノ諒解成立セリ

一 條約第三項ニ規定セラレタル日本國、獨逸國及伊太利國間ノ協力及相互援助ニ關スル細目取極ヲ協議決定センガ爲直ニ陸海軍混合委員會ヲ出來得ベクンバーヲ東京ニ他ノ一ヲ「ベルリン」又ハ「ローマ」ニ設置シ又一混合經濟委員會ヲ設置スヘシ右諸委員會ノ構成ハ日本國、獨逸國及伊太利國政府間ノ協議ニ依リ之ヲ決定ス前記諸委員會ノ爲シタル決定ハ夫々關係各國政府ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ實施セララルコトナカルベシ

外務省

B-0061

ハ陰密ニ一攻撃ヲ受ケタリヤ否ヤハ關係各國政府ニ依リ決定セラ
ルベク右攻撃ヲ受ケタル事實ガ確認セラレタル場合ニ於テ締約國
ノ執ルベキ政治的、經濟的及軍事的ノ相互援助ノ措置ハ前述ノ委
員會ニ於テ之ヲ審議シ關係各國政府ニ勸告シ其ノ承認ヲ經ベキモ
ノトス

三條約第三項ニ規定セラレタル協力及相互援助ハ大東亞及歐洲ニ於
テ速ニ新秩序ヲ建設シ人類ニ正當且公正ナル平和ヲ齎スベキ新世
界秩序ヲ終局ニ於テ完成セントスル努力ヲ根本目的トスルモノナ
ルニ因リ獨逸國及伊太利國ハ平時タルト戰時タルト問ハズ日本
國、獨逸國及伊太利國ノ大東亞及太平洋一帯ノ新秩序建設ナル共
同目的達成ヲ容易ナラシムル爲有ユル手段ヲ以テ第三國ヲ大西洋

外務省

方面ニ於テ牽制スルモノトス
條約第三項後段ニ掲ゲラレタルガ如ク日本國ガ現ニ歐洲戰爭又ハ
日支紛争ニ參入シ居ラザル一國又ハ數國ニ依リ攻撃セラレタル場
合獨逸國及伊太利國ハ太平洋ニ於テ有ユル手段方法ヲ以テ日本國
ヲ援助スベキコトヲ約ス

四獨逸國及伊太利國ハ日本國及「ソヴィエト」聯邦間ノ國交改善ノ
爲周旋ノ勞ヲ執ルベキコトヲ約シ又日本國、獨逸國及伊太利國ハ
「ソヴィエト」聯邦ヲシテ本條約ノ主タル目的ニ同調セシムル爲
最善ノ努力ヲ爲スベキモノトス
五締約國ハ隨時遲滯ナク有ユル軍事上ノ有用ナル發明及考案ヲ交換
シ且各締約國ガ合理的ニ分與シ得ベキ飛行機、戰車、銃砲、爆發

外務省

B-0061

3376

年 月 日

ニ於テ本書三通ヲ作成ス

外務省

IMT 630

86

3376

物等ノ戦争器材ヲ必要アル場合ニハ技術及人員ト共ニ相互ニ提供
 スベキコトヲ約ス、更ニ締約國ハ相互ニ礦物（油ヲ含ム）及其ノ
 他ノ物資竝ニ軍需工業用機械、諸種ノ生活必需品及其ノ生産ニ使
 用セララルル總テノ機械類ヲ相互ニ出來得ル限り供給シ且右獲得ニ
 付相互ニ出來得ル限り援助スルノ用意アルモノトス

六 本條約締結ノ精神ニ從ヒ締約國政府ハ本條約第一項及第二項ノ規
 定ニ依リ各其ノ指導的地位ヲ認メラレタル地域ニ於テ他ノ締約國
 又ハ其ノ國民ニ對シ其ノ商業及工業活動ニ付他ノ第三國及其ノ國
 民ニ比シ優越スル地位ヲ保障スルニ必要ナル措置ヲ決定スル爲直
 ニ商議ヲ開始スヘキコトヲ約ス

七 本議定書ハ之ヲ祕密トシ公表セザルモノトス

外務省

IMT 630

85

B-0061

3376

(嚴秘) (假譯)

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ日本國政府ハ獨逸國及伊太利國政府ト同ジク現在ノ歐洲戰爭ガ其ノ範圍及規模ニ於テ能フ限り制限セラレ且急速ニ終結センコトヲ熱望スル旨竝ニ日本國政府ニ於テモ右目的ニ對シ有ユル努力ヲ惜マザルベキ旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候然レドモ大東亞及其ノ他ノ地方ニ於ケル現在ノ實情ニ鑑ミ日本國政府ハ日英間ニ何等カノ武力紛争ノ可能性アルヲ全然無視シ得ザル次第ニ有之從テ日本國政府ハ獨逸國及伊太利國政府ニ對シ右可能性ニ付注意ヲ喚起スルト共ニ日本國政府ハ右ノ如キ場合ニ獨逸國及伊太利國ガ其ノ有スル一切ノ手段ニ依リ日本國ヲ援助スル爲最善ヲ盡サルコトヲ確信スルモノニ有之候

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

87

3376

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和 年 月 日

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

88

B-0061

3376

昭和 年 月 日

外務省

日本標準規格B5

IMT 630

90

3376

(嚴秘) (假譯)

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ獨逸國及伊太利國政府ニ於テ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ日本國ノ指導的地位ヲ認メ且尊重セラレタルニ因リ太平洋ニ於ケル一切ノ舊獨領植民地ノ日本國ヘノ讓渡ハ日本國政府ニ於テ最モ希望スル所ニシテ右讓渡ハ日本國委任統治地域タル諸群島ノ場合ニ於テハ無償ニテ又其ノ他ノ委任統治地域タル諸島及現ニ英領タル諸群島ノ場合ニ於テハ適當ノ代償ヲ以テ行ハルベキ旨閣下ニ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

日本國ハ前記地域ニ於ケル獨逸國及其ノ國民ノ活動ニ付別國又ハ其ノ國民ニ比シ特ニ有利ナル待遇ヲ與フベキコト勿論ニ有之候

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

外務省

日本標準規格B5

IMT 630

89

B-0061

其際「オット」大使及「スターマー」公使ハ交々議定書案ニ付キ
左記要旨ヲ語ル

「議定書案ハ日本側ノ要求事項ノミノ列記ナリ、日本側カ達テ
之ヲ主張セラルルナラハ、獨、伊兩國側ヨリノ對日要求事項ヲ
モ列舉セサル可カラス、斯クテハ内容モ相當浩濶トナリ、之カ
決定ニハ相當ノ時日ヲ要スルニ付、右ハ形式丈ケニテモ片務的
臭ヲ去ルコト適當ナルヘシ、而シテ獨逸トシテハ大東亞ニ於テ
何等政治上ノ希望ナシ、最モ重キヲ置ク點ハ獨逸國及獨逸國民
ノ經濟上ノ殊遇ナリ、此點ニ付御考慮願ヒ度シ」
齋藤顧問松岡邸ニ歸來後大臣ニ報告ノ上、右先方談話末段ノ趣旨
ニ依リ左記ノ一項ヲ立案シ、之ヲ「プロトコール」第六項トシテ

外務省

挿入シ、第六項ヲ第七項トスルコトニ決ス

外務省

B-0061

VI. In conformity with the spirit which prompted the conclusion of the present Pact, the Governments of the Contracting Parties undertake to enter into negotiations, without delay, with a view to deciding upon measures of assuring to the other Contracting Parties or their Nationals, in their commercial and industrial activities in the regions where the Contracting Parties are respectively recognized to have leadership by virtue of Paragraph I and II of the present Pact, a position which is preponderant in comparison to that of any Third Power and its nationals.

外
務
省

B-0061

九月十九日

午後三時ヨリ宮中ニ於テ御前會議開カレ、參謀總長官、軍令部長官、近衛總理大臣、松岡外務大臣、河田大藏大臣、星野企畫院總裁、原樞密院議長、澤田參謀次長、近藤軍令部次長參列、左記ヲ議題トシテ審議ヲ定メラル

日獨伊三國條約締結ニ關スル件（御前會議議題）

日獨伊樞軸強化ノ爲別紙要綱ニ依リ獨伊兩國政府交渉ヲ遂ケ日獨伊三國間ニ條約ヲ締結スルコト

要綱

一日本國ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ獨逸國及伊太利國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト

外務省

ニ獨逸國及伊太利國ハ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ日本國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト

三日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ趣旨ニ基ク努力ニ付相互ニ協力スルコト並ニ右三國ノ中一國カ現在ノ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラサル一國ニ依リテ（公然ト又ハ陰密ニ）攻撃セラレタル場合ニハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スヘキコト

四日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互相倚リ現ニ變化シ又變化シツツアル世界情勢ニ適應スヘキ世界新秩序ノ建設ニ依リテノミ平和ノ公正ニシテ恒久的ナル基礎ヲ造リ得ルモノナルコトヲ信シ其ノ實現ニ關スル各自ノ努力ヲ整調結合スルコト

外務省

B-0061

其日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記各項カ日獨伊三國ノ各ト一
 ソヴィエト」聯邦トノ間ニ現存スル政治的狀態ニ如何ナル影
 響ヲモ及ボササルモノナルコトヲ確認スルコト
 定刻出御アラセラレ、次テ近衛總理大臣ハ先ツ開議ノ趣旨ヲ説明
 ノ上、外務大臣議題ノ説明ニ當ルヘキ旨ヲ宣ス、即チ左ノ如シ
 御許シテ得タルニ依リマシテ本日ノ會議ノ議事進行ハ本大臣ニ
 於テ之ニ當ルコトニ致シマス
 御承知ノ通り支那事變ハ未タ解決セサルニ當リ、近來米國ノ我
 國ニ對スル態度ハ相當強硬ヲ加ヘテ居リマネカ、米國ノ態度カ
 硬化スルニ連レマシテ、重慶政府其ノ他日本ニ敵意ヲ有スル各
 國政府ノ態度ニモ影響シ、我國ノ國際的地位ハ益々困難トナリ、

外務省

前途誠ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ニアリマス、此ノ難局ヲ打開致シ
 マス爲ニハ、我國ノ國際的立場ヲ強化スルコトカ必要テアリマ
 スカ、其ノ方法ハ現在ノ環境ニ於テ我方ト利益ノ一致スル國家
 トノ提携ヲ強化スルコト以外ニハナイト思ヒマス、然ルニ獨伊
 ハ米國ノ參戰ヲ防止スルコトヲ希望シ、我國ハ米國トノ危機回
 避ヲ希望スル點ニ於テ、利害ノ一致ヲ見テ居ルノテアリマス、
 依テ政府ハ組閣以來銳意此ノ方向ニ向ツテ努力ヲ續ケテ來タノ
 テアリマス、最近ニ至リ遂ニ御手許ニ差上ケマシタルカ如キ
 要綱ニ依リ、我國カ今次歐洲戰爭ニ參加スルコトヲクシテ、右
 兩國トノ提携ヲ強化シ得ルノ機運ニ達シ、右ニ基キ兩國ト交渉
 ヲ遂ケ度イト思ヒマス、而シテ本案件ハ固ヨリ平和ヲ目的トス

外務省

B-0061

強化シタイト思ヒマシタカ、當時、獨逸ハ佛蘭西ヲ肅捲シ、英本國ノ如キモ、旬日ヲ出テスシテ、容易ニ征服シ得ルト云フヤウナ氣勢テコサリマシテ、獨逸ニ於ケル我國トノ提携熱ハ一般ニ極メテ低カツタノデアリマス。然シナカラ獨伊ハ、今英本國ヲ屈服サスコトカ出來マシテモ、其ノ後ニ於テ、英帝國全部ノ崩壊戰ハ事シカク容易テハコサリマセヌ上ニ、更ニ米國ト英帝國ノ殘存勢力トカ結合シテ出來ルトコロノ「アングロ、サクソン」王國又ハ「プロック」トモ云フヘキモノト今次ノ戰爭ニ依ツテ強大ヲ加ヘタル「ソ」聯邦ト云フニ大勢力ト對抗シナケレハナラヌコトハ明瞭デアリマス。其ノ場合地理的ニ惠マレタ地位ヲ占メ且世界無比ノ國體ノ下ニ優秀

外務省

ルモノデアリマスカ、最悪ノ事態ノ發生ヲモ覺悟スル必要カアリマスノテ、我國運ノ消長ニ關スル未曾有ノ重大案件ト申スヘキデアリマス、依ツテ極メテ慎重ニ審議ヲ盡シ、御決定ヲ仰キ度イト考ヘマシタノテ、本會議ノ開催ヲ奏請致シマシタ次第デアリマス、本案件ノ本日迄ノ經過竝ニ獨、伊兩國政府トノ間ニ締結セントスル條約要綱ニ付テハ、外務大臣ヨリ詳細説明致サセ度イト思ヒマス

次テ松岡外務大臣ハ議題ノ説明ヲ爲ス、即チ左記ノ如シ

甲、經過

本大臣ハ七月下旬、現内閣カ成立致シマシテ以來、只今内閣總理大臣ノ申サレマシタ趣旨ニ基キ、獨伊トノ政治的提携ヲ

外務省

B-0061

ナル民族ヲ持ツ我國ノ力ハ偉大ナルモノカアリマスノミナラ
 ス、現在ト雖モ或意味ニ於キマシテ、皇國ハ實ニ世界ノ天秤
 ヲ左ニテモ右ニテモ上下サス丈ノ力ヲ持ツテ居ルト云フノカ
 不肖本大臣ノ抱ケル見透シト見解テアリマス。而シテ此ノ事
 位ハ「ヒトラ」總統及少クトモ其ノ周圍ノ者タケハ認識シ
 テ居ルテアラウト想像シマシタ、否ソノ容子カ多少窺ハレタ
 ノテコサリマス。彼等ハ當時ニ於テモ我國トノ提携ニ相當ノ
 熱意ヲ持ツテ居タヤウテアリマス。根本ニカヤウナル考ヲ持
 ツテ居リマシタカ故ニ、私ハ諸般ノ情況上一應ハ急キタイト
 云フ心持ノ中ニモ、固ヨリ下手ニ出ル要モナク、又已ムヲ得
 ナケレハ英本國屈服後トナツテモカマワヌ、若シサウナツタ

外務省

ナラハ、愈々以テ緩ツクリト構エヤウト決意致シテ居ツタノ
 テアリマス。何レニ致シマシテモ、當時焦ルト見ラレルヤウ
 ナ手ヲ我方カラ出シマスルコトハ外交上禁物テアツタノテコ
 サリマス
 我カ獨自ノ立場ヲ堅持シ、必スシモ獨伊ト結フノ要ナシ、若
 シソレカ我國ノ存立ト使命遂行上、必要又ハ便利テアルナラ
 ハ、米ト結ヒ、或ハ英ヲ救フコトヲモ敢ヘテ辭セヌト云フ姿
 勢サヘ示シテカカラナケレハナラヌト信シタノテアリマス。
 ソレカラ、何ヨリモ先ツ獨伊始メ世界ニ向ツテ本件ニ關シ斥
 候戰ヲ始メナケレハナラナカツタノテアリマス。本大臣ハ就
 任前後ヨリ遲滯ナク之ヲ開始シ、少シク容子カ知レマシタノ

外務省

B-0061

テ、一步ヲ進メ本大臣ハ八月一日「オット」大使ヲ御茶ニ招
 キテ、樞軸強化カ我朝野ヲ通シテノ傾向ナルハ貴大使モ御承
 知ノ通リテアルカ、ソレカ物ニナルニハマダマダ容易テハナ
 イ、朝議モ未タ具体的ニ確定シテハ居ナイト云フ趣旨ヲ告ケ
 マシタ上、支那事變ハ日本獨力ニテ其内片付ケル考テアルカ
 ラ、別ニ獨逸ニ於テ意ヲ煩ハサレナイテヨロシイト申述ヘマ
 シテ、一應大使ノ仲介セントスル口吻ヲ押ヘ、我建國以來傳
 統タル八紘一字ノ大理想ヲ實現セントスル決意ノ眞剣ナル事
 ト、先ツ之ヲ大東亞共榮圈内ニ於テ試ミントスルモノナル旨
 ヲ説キ、次テ、タトヘ英本國カ間モナク屈スルトモ、ソレハ
 大英帝國崩壞ノホンノ初マリナルニ止マリ、決シテ終ニアラ

外務省

サル所以ヲ申開ケ(大使モ同様ノ事ヲ自ラ進シテ申シテ居リ
 マシタ)右二ツノ大局的觀點ヨリシテ、獨モ亦日本トノ提携
 ノ可否ヲ決スヘキテアルト結論シ(一)大東亞圈ニ對スル前述ノ
 日本ノ理想實現ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、如何ナル
 事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ルカ又助ケル考ナルカ、又コノ圈内ニ
 於テ獨逸ハ何ヲ求ムルカ、(二)日「ソ」關係ニ就キ獨逸ハ如何
 ニ考フルカ、又何ヲナシ得ルカ、(三)日米關係ニ就キ如何ニ考
 フルカ又何ヲナシ得ルカトテ、以上三項ニ關スル本大臣ノ質
 問ヲ至急「ヒトラ」總統ト「リップントロップ」外相ニ架
 電シテ、其返事ヲ得ラレタシト告ケマシタ

右ニ對スル返事ハ容易ナラストシテ、獨大使ハ遊ツテ居リマ

外務省

B-0061

シテ、私モ亦容易ニソノ返事ハ來ナイテアラウト豫想シマシ
 タトコロ、果シテ來マセンテシタ。私ハ態ト催促セスニ放ツ
 テ置キマシタ。然ルニ、「リッベシトロップ」外相ハ其東洋
 問題ニ關スル懷刀テアルト言ハレテ居リマスル、「ハインリ
 ッヒ・スターマー」總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二
 十三日「ベルリン」出發、急遽「モスコ」ヲ經テ、本邦ニ
 送ツタノテアリマス。同公使ハ九月七日朝東京ニ着キマシタ
 ノテアリマスカ、本大臣ハ別ニ急イテ會ヒタイ態度ハ示サナ
 カツタノテアリマス。トコロカ九日先方ヨリ會見ヲ申出テマ
 シタノテ、人目ヲ避クル爲同日私ノ私邸テ、同公使及「オッ
 ト」大使ト會見致シマシタ。ソレカラ十日二度目ノ會見ヲ遂

外務省

ケ九月十一日三度目ノ會見ニ於テ一案ヲ得、更ニ獨逸本國政
 府ト本大臣トノ間ニモ意見ヲ交換シタル結果、御手許ニ差上
 ケマシタ要綱ノ如キモノニ大體落チツキマシタカ、此要綱ニ
 掲ケラレテ居リマス各點及ヒ八月一日「オット」大使ヲ經テ
 「ベルリン」ニ電報セシメマシタ本大臣ノ質問各點ニ付キマ
 シテハ「スターマー」ハ明確率直ニ其ノ見解ヲ述ヘテ居リマ
 シタ次第テ、此點ハ本大臣ニ於テモ満足ト致シテ居ル次第テ
 アリマス。依テ今後更ニ是ニ基イテ交渉ヲ進メ細部ニツキ妥
 結ニ達シタイト思ヒマス。

外務省

乙、要綱ノ説明

第一項ノ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスカ、當方テハ當初「アフリカ」ニ於ケル新秩序建設ヲ先方カ持出スカト思ツタノテコサリマスカ、先方カ之ヲ持チ出サナカツタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル地位承認ニ限ツタ次第デアリマス。

第二項ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、「タイ」國、「ビルマ」、海峽植民地、蘭印ヨリ「ニューギニヤ」、「ニューカレドニヤ」等ヲ含ム「オセアニア」ノ島嶼ヲ含ム意味デアリマシテ、此ノ

外務省

コトハ此際ノ事テモコサリマスシ、ソレニ東亞ノ形勢如何ト世界情勢ノ推移ニヨリ漸次其範圍ニ變更ノアリマスロトト豫想サレルコトテモコサリマスノテ、先方ヘハ態ト大擱ミニ話シ、濠洲ト「ニュージランド」及其以南ハ今ノ處這入ラヌカ、時ト共ニ自然範圍ハ擴ガルナラン、ト申聞ケ、印度ニハ言及ヲ避ケマシタ。先方モ別ニ細マクハ尋ネスシテ本大臣ノ所述ニ同意ノ意ヲ表シマシタ。

是ニ對シ獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ認ムルカ、經濟的ノ通商、企業、原料取得ト云フカ如キコトニ就テハ日本ニ於テモ出來得ル限り便宜ヲ與ヘテ貰ヒタイト申シテ居ルノデアリマス。日本側モ亦同地域ノ經濟的開發ニハ大ニ

外務省

B-0061

獨伊ノ協力ヲ得ンコトヲ期待スルモノテアルト應酬シテ置キマシタ。

第三項ノ中「一國又ハ數國ニ依リ（公然若ハ陰密ニ）攻撃セラレタル場合云々」ノ一國ト申スノハ暗ニ米國ヲ主トシテ指シタノデアリマシテ、其ノ一國ニ依リ攻撃セラレタル場合ニハ自働的ニ參戰義務カ發スル次第デアリマシテ、即チ我國ハ獨伊ト米國ヲ對照トスル軍事同盟ニ這入ルノデアリマス。

公然若ハ陰密ニ攻撃セラレタル場合」ノ「公然若ハ陰密ニ」ノ文句ハ先方テ入レテ來タノデアリマスカ、「スターマー」公使及「オット」大使ハ一應ハ之ヲ削除スルコトニ贊成シ、其事ヲ「リッペン」外相ニ電報シタノデアリマスカ、マダ或

外務省

ハ獨外相カ之ヲ固執スルカモ知レヌト云フ餘地ハ殘ツテ居リマス。其ノ解釋ハ相當困難デアリマシテ、特ニ陰密ニ攻撃セラレタルトハ如何ナルコトデアルカ問ヒマシタ處、米國カ今ノ程度ノ事ヲ爲シテルコトヲ意味スルノテハナイ、寧ロ日本ノ爲ヲ思ツテ考ヘタコトテ、例ヘハ英國ノ有スル太平洋ノ重要地點ヲ、英トノ祕密取極ニ依リテ使用シ、或ハ直ニ米國カ艦隊ヲ「シンガポール」ニ入レル、ト云フカ如キ場合ヲ意味スルノデアルト答ヘマシタ。之ニ對シテ本大臣ヨリ、然ラハ獨伊ニ關シテハ如何、ト問ヒマシタニ對シ、先方ハ、例ヘハ歐洲戰場ニ近接セル地點、地中海ニ在ル英ノ有力ナル根據地ヲ米ヲシテ占據セシムルトカ云フヤウナル場合ヲ指スモノナル

外務省

ヘシト答ヘマシタ。右ノ如ク攻撃ヲ二ツノ種類ニ區別スルニシロ、單ニ「攻撃」トスル場合ニシテ、米國又ハ其ノ他ノ第三國ノ或行動若クハ行動ノ連鎖カ、果シテ本項ニ所謂攻撃ヲ構成スルモノト認ムヘキヤ否ハ三國協議ニ依ツテノミ決定セラルルノテアリマス。爲念何等カノ形ニ於テソノ事ヲ明瞭ニシテ置カウト云フ話合ニシテアリマス。依ツテ孰レノ辭句トナストモ懸念ハナイト存シマス。

第四項ニ就テハ別ニ説明スル必要ハナカラウカト存シマスルカ、コレハ大體前文ニスル考テ話ヲ進メ先方モ略同意致シテ居リマス。我建國ノ御詔書ノ中ニアリマスル八紘一宇即チ總テノ國民、民族カ各々其所ヲ得ルト云フ大精神ヲモ取入レテ

外務省

餘程辭句ヲ練ツタモノテ御座リマス。

第五項ハ本條約カ蘇聯ニ向ケラレタルモノト非サルコトヲ規定シタモノテアリマス。カ、實ハ「ソ」聯ハ獨伊對英佛戰ニハ參加シテ居ナイ建前トナツテ居ルノテ、或ハ第三項ノ所謂「一國」ニ相當スルモノテハアルマイカトノ疑惑ヲ生スル虞モアリマスシ、旁々日獨伊カ世界新秩序ヲ造ル上ニ於テ蘇聯ヲ敵ニ廻ス懸念ノナイコトヲ明カニシ、特ニ獨逸ト蘇聯トノ間ニ「ポーランド」始メ、歐洲ニ於ケル現在ノ取極又ハ見解若クハ或種ノ事態ヲ存セル、ソノ事實ニ些カモ影響スル所ノナイコトヲ明カニシテ、蘇聯ヲ安心サセ、之ニ依リ米蘇ノ接近ヲ防クノ目的ニ資シヤウトスル趣旨テアリマス。

外務省

B-0061

尙別ニ條約附屬文書ヲ作成致シマシテ、本條約成立後速ニ東京、伯林、羅馬ニ軍事及經濟ノ混合委員會ヲ結成シ、本條約ノ趣旨ニ基キ、實行ニ關スル詳細ナル取極ニ就テ研究セシメ、政府ニ提示ノ上政府ノ承認ヲ求メシムヘキコトヲ規定シタイト思ヒマス。又獨伊兩國カ「ソ」聯ヲシテ本件條約ノ趣旨ニ同調セシメ且我國ト「ソ」聯トノ國交調整ニ斡旋ノ勞ヲ執ルヘキコト竝ニ獨逸カ我方ニ對シ戰爭資材及技術並要スレハ技術官其他ノ人員等ヲ供給シ、蘇聯其ノ他ヨリ石油ノ獲得ニ協力シ、又我方ヨリモ供給シ得ルモノナラハ、戰爭資材及食糧其ノ他生活必需品並技術ヲ供給スル等ノ事ヲ約束スルコトニナラウト思ヒマス。カ、形ハ一應ハ相互的ノ辭句トシナケレハ

(日本標準規格B5)

IMT 650

外務省

ナラヌコトト存シマス。
 更ニ此要綱ノ趣旨ニハ交渉ノ成行ニ依ツテハ、多少ノ變更ヲ見ルコトモアリマセウ、又字句ノ修正ヤ形式ノ變更モ御座イマセウト存シマス。此邊ハ外交接觸上ノ手心ヲ加ヘルコトヲ御許シ戴キタイト存シマス。但シ如何ナル場合ニモ右要綱ノ根本ノ趣旨ヲ變更スルヤウナコトハ致シマセヌ考テ御座イマス。カ若シ萬カ一ニモ根本趣旨ニ變更ヲ來サネハナラヌヤウナ場合ニ立到リマシタナラハ、改メテ必要ナ手續ヲ執リマスコトニ御含ミヲ願ヒマス。

(日本標準規格B5)

IMT 650

外務省

B-0061

丙、結言

今回ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼内閣時代ノ夫レト全ク異ツテ居
 リマス。即チ獨逸側モ日本ノ歐洲戰爭參加ノ必要ナシト言明
 シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日
 米衝突ヲ、回避スル事ヲ共通目的トシタノデアリマス。從テ
 皇國政府ガ從來採ツテ來マシタ不介入ノ方針ハ、將來本條約
 ニヨリ影響セラレルコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ
 繼續セラレル次第デアリマス。

米國ハ「カナダ」トノ共同防衛ヲ決定スルヤ、間モナク、日
 米間ノ些細ナ問題ニ迄、殆ント堪ヘ難イト思ヘルガ如キ態度
 ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米

外務省

大統領及國務長官ノ反省ヲ促シタヤウナ次第デアリマス。

最近ノ動キニ就キ洞察シマスルニ、米國ハ太平洋及ヒ南洋方
 面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シツツアル軍事施設ニ加
 フルニ此ノ際飛躍的ニ且取急イデ濠洲、新西蘭、印度、「ビ
 ルマ」其ノ他ノ南方ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍
 事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ整ヘントシテ居ル
 ノデハアルマイカト、「カナダ」トノ前述共同防衛ニ關スル
 協定成立ガ報セラレマシタル時、本大臣ハ已ニ想像シタノデ
 ゴザリマスガ、數日來果然英帝國及ヒ濠洲政府ト米國トノ間
 ニ、協議進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト思ハルル新聞
 報道サヘ傳ヘラルルニ至ツタノデアリマス。又段々ト支那事

外務省

B-0061

變ニテ日本ガ消耗戰ニ惱ンデ、國力が著シク減殺セラレタト見テ恫喝の言辭ヲ弄スルノデハアルマイカト想像セラルル廉モゴザリマスガ、ソノ理由ノ那邊ニ在ルニセヨ、日米國交ハ最早禮讓又ハ親善希求等ノ態度ヲ以テ改善スルノ餘地ハ殆ンドナイト思ハレマスノミナラズ、却ツテ惡化サス丈ノ事デアハアルマイカト懸念セラルル有様ニナツテ參リマシタ。若シ幾分ニテモ之ヲ改善シ又ハ此ノ上ノ惡化ヲ防グ手段アリトスレバ、唯毅然タル態度ヲ採ルト云フ事シカ、此ノ際ノ措置トシテハ、殘ツテ居ナイト存ジマス。苟モ然リトスレバ、ソノ毅然タル態度ヲ強ムル爲ニ一國ニテモ多クノ國ト堅ク提携シ、且ソノ事實ヲ一日ニテモ、速ニ中外ニ宣明周知セシムルコト

外務省

ニ依リテ、米國ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアルト信ズルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響乃至效果ヲ注視シツツ尙米トノ國交ヲ轉換スルノ機會ハ、之ヲ見逃サナイ用意ヲ常ニ怠ラナイ覺悟デゴザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ堅イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ツテ一點疑ヒヲ容ルル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセヌ。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最重要ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

次テ近衛總理大臣ハ質疑ノ向ハ之ヲ述ヘラレ度シト告ケ、質疑應答アリ、後參謀總長官及軍令部次長官ヨリ夫々意見ノ御開陳アリ、原樞密院議長亦意見ヲ述ブル所アリタルモ、原案ニ反對ナク、總

外務省

B-0061

理大臣ハ原案可決ヲ宣シ、御入御ノ後、參列者各議題ニ花押、續
 イテ上奏手續ヲ執ル、其間約三時間半ノ長キニ及フ
 午後九時半、依命、齋藤顧問樺山祕書官ト共ニ獨逸大使館ニ至リ、
 日英衝突ノ場合ノ獨伊側ノ援助問題ニ關スル公文中字句ヲ修正シ
 タル新案及、獨伊兩國ノ大東亞ニ於ケル商工業上ノ特權問題ニ關
 スル當方ノ案ヲ提示シ、先方異議ナク、直チニ「ベルリン」へ請
 訓ヲ約ス、其際同顧問ノ述ヘタル點、略ホ左ノ如シ
 「日英衝突ノ場合ノ獨、伊ノ援助ニ關スル條項ハ日本側ニ於テ相
 當重キヲ置ク點ニシテ、日英衝突ノ可能性相當濃厚ナル際、此條
 項ニ關スル貴我ノ了解ハ、我方ニ於テ本條約及附屬書ヲ通過セシ
 ムル上ニ於テ、内政上極メテ重要ナル問題ナリ、松岡外相ヲシテ

外務省

本條約締結上ノ一故障ヲ除去セシムル上ニ於テモ、貴方ハ之ヲ承
 認セラルル要アリ、若シヤ八日ニ提議シタル公文案ニ
 It is earnestly desired that 云々トアリテハ、餘リニ際立ツトナラ
 ハ、 Japan feel confident 云々トシ、貴方ヨリ may feel confident
 ト曰フカ如キ返答ヲ得ルニ満足スヘキニ付、此點伯林ニ請訓セラ
 レタシ、ト告ケ、先方之ヲ諾ス、又昨日御希望ノ大東亞地域ニ於
 ケル「獨、伊側ノ大東亞圈内ニ於ケル經濟上ノ特權保障問題ニ付
 テハ一案ヲ作成シタリ、之レニテ如何」先方「異議ナシ、早速伯
 林ニ電報スヘシ」然ラハ此新項ヲ議定書六項トシ、舊案六項ヲ
 七項トセラレ度シ」
 最後ニ我方ヨリ「我方ノ準備ハ成レリ只貴方ノ返答ヲ待ツノミ、

外務省

B-0061

3376

九月二十日

午前八時半松岡大臣「オット」大使ニ電話、何時ニテモ調印出来
 得ルヤウ獨、伊兩國政府ヨリ電報ニテ全權委任ノ旨通告ヲ受ケラ
 レタシト要求ス（正式ノ全權委任狀ノ到着ヲ待ツコトナシニ）、
 又、大臣ハ豫備交渉ノ際ノ英文ヲ其儘正文トシ、日、獨、伊兩國
 文ヲ正文トスルコトニヨル時日ノ遷延ヲ避ケタシト申入レ、先方
 ハ「後日、日、獨、伊三國語ニ改ムルコトトシ、差詰メ英文ヲ正
 文トシ差支ナシト思考スルモ、右ニ付テハ伯林ヨリ訓令ヲ得ルノ
 要アルヲ以テ、其ノ到着迄公式ノ回答ヲ留保シタシ」ト語ル
 大橋次官午前中松岡私邸來訪、御前會議ノ様子ヲ聞ク、大臣ハ經
 過ノ概要ヲ語り、諸事滞リナク進行シタリト告ク

外務省

日本標準規格B0 IMT 630 121

3376

一日モ速カニ調印ノ運トナルコトヲ希望ス」ト述へ、先方ハ「當
 方ニ於テモ締結ヲ急キ居レリ、伯林ヨリノ回訓ハ明日、明後日ニ
 モ來ルヘシ」ト語ル

外務省

日本標準規格B0 IMT 630 120

B-0061

其際大臣ハ大橋次官ニ對シ、條約調印直後勅語ヲ下シ置カルコトトシ度キニ付案文ヲ作成スヘシト命ス、午後大橋案文持參ノ上松岡私邸ニ來ル、大臣留守ナリシカハ齋藤顧問之ヲ受領改文ス本日午前十時ヨリノ閣議ニ於テ近衛首相及松岡外相ヨリ本件條約締結ノ經過ヲ説明シ、閣員ノ了解ヲ受ク

次テ新体制準備委員會ノ席上、近衛首相ヨリ本件交渉ノ旨ヲ極メテ間接ノ言句ヲ以テ説明ス

本日迄本件交渉ハ嚴秘ヲ保タレタルモ、本日ヨリ弗々外間ノ氣付クトコロトナル

松本條約局長條約、議定書及ニ交換公文ノ各案ヲ整理シ、樺山書記官持參ノ上、近衛首相、木戸内大臣、原樞密院議長、陸、海軍

外務省

大臣ニ各一部宛ヲ配布ス

九月二十一日

午前八時半獨逸大使ヨリ、本國政府ノ訓令到着シタル趣ヲ以テ、出來得ル限り速カニ「デサイファー」ノ上當方ト協議スヘキ旨電話アリ、午前十一時再應電話アリ、右長文訓令中ノ一部「デサイファー」出來タルニ付、御出ヲ願度シトノコトニテ、同十五分齋藤顧問同大使館ニ至リ、「オット」大使ヨリ先方第三次案ヲ受領ス

此案ハ當方最後案中ノ第三項中ニ宣戰條項ヲ挿入シ、且ツ當方案「プロトコール」中ノ混合委員會ニ關スルモノ中、軍事委員會ノ部分ヲ本條約中ニ移シテ之ヲ第四項トシ、當方條約案第四項以

外務省

下ヲ順次ニ繰下ケタルモノナリ
 其節大使ノ説明ニ依レハ、右修正ハ專ラ條約文ヲ強ク響カセ、第
 三國ニ對スル印象ヲ深刻ナラシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノ
 ニシテ、日本側案トハ實質ニ於テ相違ナシ、而シテ此修正ニ依リ
 米國ニ與フル印象ハ極メテ深カルヘク、米國カ日本ト開戦スルカ
 爲メニハ獨、伊兩國ヲモ敵トセサルヲ得サルニ至ルヘキヲ以テ、
 日米開戦ノ危険、及、米國ノ歐戰參加ヲ防止スル上ニ於テ大ナル
 效果アルヘシ、猶ホ混合軍事委員會ニ關スル規定ヲ條約文ニ入レ
 タルハ、是亦條約其ノモノノ威力ヲ増大スルノ趣旨ニ外ナラス、
 獨逸案ニハ「ヂェネラルスタフトアルモ、日本側ノ希望ニ依リ
 テハ「ネーバル、エンド、ミリタリー、ヂェネラルスタフト

外務省

改ムルモ可ナリトノコトナリ、猶ホ今回ノ案ハ「リップベントロッ
 プ」外相カ「ローマ」ニ於テ伊太利政府ト協議ノ上決定セラレタ
 ルモノナルコトヲ附言セリ
 大使ハ言ヲ繼キテ、佛印ニ對スル日本ノ出兵時期ハ本條約締結後
 ニスルコト、米國ノ佛印尻押シヲ抑フル爲メニ有效ナルヲ以テ、
 考慮ヲ得度シト語り、齋藤顧問ハ、御話ノ次第ハ之ヲ外務大臣ニ
 報告スヘシト約シ、先方案寫一部ヲ貰受ケ辭去シ、直チニ大臣ヲ
 拓務省ニ訪ヒ、大臣室ニ於テ報告ス
 獨逸側第二次案左ノ如シ（我最後案トノ相違ヲ示ス爲メ右最後案
 ニ加筆訂正シタリ）

外務省

B-0061

3376

- I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. If a power not at present included in the European War or the Chinese-Japanese conflict commits an act of aggression against one of the three Contracting Parties, Japan, Germany and Italy undertake to declare war on such power and to assist one another with all political, economic and military means.
- IV. With a view to implementing the present pact, conversations between the general-staffs of the Japanese, German and Italian force will be opened by technical commissions which will meet without delay.

IMT 630

127

外
務
省

3376

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

IMT 630

126

外
務
省

B-0061

delay.

V. Japan, Germany and Italy affirm that the afore-
said terms do not in any way affect the politi-
cal status which exists at present as between
each of the three Contracting Powers and Soviet
Russia.

VI. The present Pact shall come into effect immedia-
tely upon signature and shall remain in force
for ten years from the date of its coming into
force.

At proper time before the expiration of the
said term the High Contracting Parties shall,
at the request of any one of them, enter into
negotiations for its renewal.

In faith whereof, the undersigned, duly
authorized by their respective Governments,
have signed this Pact and have affixed hereto
their seals.

Done in triplicate at _____, the _____ day of

外
務
省

B-0061

午後二時英國大使松岡外相ヲ官邸ニ訪問、本條約問題ニ付種々質問ス

午後三時半豊田海軍次官大臣私邸來訪シタルニ付、大臣ヨリ獨逸側第三次案寫ヲ手交ス、次テ樺山祕書官陸軍大臣ヲ陸軍省ニ往訪右寫一通ヲ交付ス

白鳥顧問、松本條約局長條約ノ本文(英文)案ヲ訂正ス

午後四時五十分海軍大臣ヨリ電話ニテ、委任統治地域ニ關スル交換公文及獨逸第三次案第三項ノ宣戰布告ノ點ニ付異議ノ申出アリ、大臣ハ「貴意ハ之ヲ了シ、予モ亦貴意ニ副フヤウ充分努力スヘキモ、貴方カ右削除無ケレハ條約ヲ締結セストモ可ナリトノ意見ナリ否ヤ、之ヲ確カメサレハ談判ヲ進行スルヲ得ス」ト告ケタルニ

外務省

ソレ程迄ニハ考ヘ居ラサルモ、當方ノ意見御考慮アリ度シトノ答辯アリ

午後五時「オット」大使「スターマー」公使帶同、外相私邸來訪、午後七時辭去、食後再來ヲ約シテ辭去、同九時再來、獨逸側第三次案ニ付キ説明スル所アリ、又議定書及附屬交換公文ハ此際一切「ドロップ」シ、本條約一本建ニテ進ムコトカ、談判促進ノ爲メ必要ナリト主張シタリ、之ニ對シ大臣ハ當方ノ主張ヲ種々説明スル所アリ、午後十一時四十分辭去、其ノ際兩者間ノ話合概ネ左ノ如シ

(1) 大臣ハ獨逸側第三次案第三項宣戰布告條項カ我 天皇ノ宣戰大權ノ絶對性ト相容レス、我國體ニ反スルモノナルコトヲ強調シ、

外務省

B-0061

先方ハ之ヲ認メ、右第三項中ヨリ declare war and ヲ削除スルコト
 トシ、又 aggression 云々ノ部分ハ當方案ノ attached 云々ニ戻ス
 コトヲ承諾ス

(2) 「プロトコール」ハ之ヲ「ドラフト、プロトコール」、又ハ會
 談要録トシテ獨逸政府ノ「コンファーマーション」ヲ取付クル
 コトトシ、方式ハ當方ニ於テ作成スルコト

(3) 交換公文案中

(1) 太平洋ニ於ケル舊獨領諸島讓渡ニ關スルモノハ、我原案ニ字
 句ノ修正ヲ加ヘタル上、之ヲ我方「オーラル、ステイトメン
 ト」トシ獨逸側ヨリソノ correctness ヲ承認シタル書面ヲ取
 付クルコト

外務省

右修正ノ要旨ハ日本統治地域カ永久ニ日本ノ Possession タル
 ヲ認メ、猶ホ代償（名義上ノ）規定ヲ置キ、其他ノ舊獨領諸
 島ハ、本條約締結後ニ於テ、友好ノ精神ニ依リ商議スルコト
 ノ趣旨ニ依ルモノナリ、而シテ本問題ハ素ヨリ日、獨逸ノミ
 ノ關係ナリ

(1) 日英衝突ノ場合ノ援助ニ關スル交換公文ヨリ伊太利又ハ伊太
 利政府ノ字句ヲ削除ス

午後十二時大臣近衛首相訪問ノ爲メ私邸出發、總理官邸ニ於テ交
 渉經過報告ノ上、二十二日午前二時歸邸、其日大臣ヨリ近衛首相
 ニ首相談話内容案ヲ提出ス

九月二十二日

外務省

B-0061

前夜ノ彼我會談ニ基キ案文整理ノ爲メ、松本局長、樺山祕書官大臣私邸ニ來リ、午前八時ヨリ事務ニ取掛ル決定案左ノ如シ

日本國、獨逸國及伊太利國間三國條約（假譯）

大日本帝國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ

萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルヲ以テ恒久平和ノ先決要件ナリト認メタルニ依リ大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ各右地域ニ於ケル當該民族ノ共存共榮ノ實ヲ舉クルニ足ルヘキ新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ最高ノ目的ト爲シ右努力ニ付相互ニ提携シ且協力スルコトニ決意セリ而シテ三國政府ハ更ニ爾餘ノ地域ニ於テモ同様ノ努力ヲ爲サントスル諸國ニ對シテハ協力ヲ致サント欲スルモノニシテ斯クシテ世界平和ニ對スル三國條約ノ抱負

外務省

ヲ實現センコトヲ欲ス依テ日本國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ左ノ通協定セリ

一 日本國ハ獨逸國及伊太利國ノ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

二 獨逸國及伊太利國ハ日本國ノ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

三 日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記方針ニ基ク努力ニ付相互ニ協力スヘキコトヲ約ス現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラサル一國カ三締約國ノ一國ニ對シ不法侵犯ノ行爲ニ出テタルトキハ日本國、獨逸國及伊太利國ハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スヘキコトヲ約ス

外務省

B-0061

3376

署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ 年 月 日

ニ於テ本書三通ヲ作成ス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

136

3376

四本條約實施ノ爲夫々日本國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ニ依リ任命セラルヘキ委員ヨリ成ル混合専門委員會ハ遲滯ナク開催セラルヘキモノトス

五日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記各條項カ三締約國ノ各ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ現存スル政治的状態ニ何等ノ影響ヲモ及ボササルモノナルコトヲ確認ス

六本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルヘク、實施ノ日ヨリ十年間有效トス

右期間滿了前適當ナル時期ニ於テ締約國中ノ一國ノ要求ニ基キ締約國ハ本條約ノ更新ニ關シ協議スヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

135

B-0061

3376

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

外務省

IMT 630 138

3376

Three Powers Pact
Between
Japan, Germany and Italy.

外務省

IMT 630 137

B-0061

ARTICLE 4.

With a view to implementing the present Pact, Joint Technical Commissions the members of which are to be appointed by the respective Governments of Japan, Germany and Italy will meet without delay.

ARTICLE 5.

Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three Contracting Parties and Soviet Russia.

ARTICLE 6.

The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force

ARTICLE 1.

Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

ARTICLE 2.

Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

ARTICLE 3.

Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three Contracting Parties is attacked by a power at present not involved in the European War or in the Sino-Japanese Conflict.

ARTICLE 4.

B-0061

3376

force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at , the day of the month of the year of Syōwa, corresponding to the

外
務
省

IMT 630

141

B-0061

午後〇時三十分齋藤顧問獨逸大使館ニ於テ「オット」大使「スターマー」公使ニ面會、昨夜ノ大臣大使間ノ會談ニ基キ訂正セラレタル交換文書案（「プロトコール」）ヲ交換公文ニ代ヘタルモノ及從來ノ二交換公文ヲ修正シタルモノ（「フオーマル」ナルヲ以テ、モウ少公使ハ交々右公文案カ餘リニ「フオーマル」ナルヲ以テ、モウ少シ形ノ樂ナルモノニシ度シ、又「プロトコール」ニ代ルヘキ公文案ノ内容ハ少シク長キニ失スルノミナラス、日本側ノ要求修項ノミヲ列舉シ、片務的ノモノ故、何トカ形ヲ改ムルコト然ルヘント思ハルルモ、何レ研究ノ上今夕五時大臣ト會談ノ際申出ツヘント語ル

午後四時大臣ノ命ニ依リ齋藤顧問原樞密院議長ヲ九段ノ私邸ニ訪

外務省

ヒ、交渉最近ノ經過ヲ説明ス、其際同議長ヨリ
 (イ) 舊獨領日本委任統治地域ヲ日本領トスル爲メノ補償ノ規定ハ如何カト思フトノコトナリシニ付、右ハ先方ニ於テモ「ノミナル」ノモノナリト言ヒ居レリト答ヘタルニ、然ラハ其旨ヲ何等カノ形ニ於テ文書トシテ置クヲ可トストノ注意アリ
 (ロ) 蘭領ノ石油問題ハ目下ノ差迫リタル必要問題ナレハ、何トカ文句ニ致シ置ク途ナキヤ

(ハ) 「プロトコール」其他ノ附屬文書ヲ了解事項トセララルナラハ樞密院會議ニハ本條約ノミヲ附議シテ可ナリ、但シ附屬文書ハ參考書類トシテ提出シ、議決後之ヲ取上クルモ一法ナリ、口頭説明モ決シテ不可ト曰フニハ非サルモ、右ノ方宜シカルヘシ云

外務省

午後四時白鳥顧問松岡邸ニ來リ、本日「オット」ト會談ノ結果ヲ報告ス、之レニ依レハ、獨逸政府ハ伯林ニ於ケル調印ヲ堅ク主張ストノコトナリ、之ニ對シ大臣ハ本條約ノ調印ハ伯林ニテ、又交換公文ハ東京ニテ「サイン」スルコトモ一法ナルヘキモ、何レ今夜來邸ノ「オット」大使ト協議スルコトトスト語ル

午後五時半「オット」「スターマー」松岡邸訪問、前日ニ引續キ交渉、條約附屬文書ニ付キ商議シ、日英開戰援助ノ件ニ關スル交換公文ハ當方案通り決定、「プロトコール」ニ代ルヘキ文書ニ付キテハ、先方ヨリ新タニ一案ヲ提出ス、左ノ如シ

「オット」「スターマー」兩氏ハ右交換公文案ニ付キ(1)本案ハ松

外務省

岡外相ト「オット」大使トノ間ノ會談要録ヲ獨逸側往信トシタルモノニシテ、松岡外相ヨリ之レヲ確認スル旨ノ覆答ヲ期待スルコト(2)右ハ日獨間ノ交換公文ニシテ、伊太利側トハ何等關係ナキコト、從テ此公文ハ伊太利側ノ思惑ヲモ考慮シ、嚴祕トスヘキコト(3)内容ハ日本側議定書ノ實質ヲ殆ント其儘取り入レタルモノナルヲ以テ、日本側ニ於テ何等異議ナシト思考スルコト(4)日本側ニ於テ適當加除訂正セラレ度キコト等ヲ説明ス、之ニ對シ松岡外相ハ研究ノ上何分ノ回答ヲ爲スヘント答フ

次テ東亞ニ於ケル舊獨領諸島處置問題ニ移リ、右ニ關スル交換公文中日本委任統治地域ノ日本ヘノ讓渡カ adequate compensationヲ爲スヘキ旨ヲ規定シアルモ、右ハ此協定ヲ双務的ノモノト爲ス

外務省

B-0061

3376

カ爲メニシテ、事實ハ名儀上ノモノナリト先方ノ申條ヲ文書ニ
留メ置ク爲メ、當方ニ於テ「スリップ」ヲ作成シ、先方ニ示シ
タルモ、先方ハ之ニ「サイン」スルヲ欲セサリシ爲メ、決定ニ至
ラス

次テ條約調印地ヲ伯林トスヘキヤ又ハ東京トスヘキヤニ付キ意見
ヲ交換シ、先方ハ伯林ヲ主張シタルニ對シ、松岡外相ハ本條約ハ
伯林ニ於テ調印シ、交換公文ハ東京ニ於テ調印スルコトアルヘキ
モ、右ニ付テハ今直チニ之ヲ斷言シ得サル事情アリト告ク

外務省

日本標準規格 B6
TMT 630 146

B-0061

3376

new and decisive period of World History in which they will be charged with leadership of the establishment of a new order in Greater East Asia and in Europe. The recognition of our interest which are in conformity for the present time and for long future and unlimited mutual confidence of the Contracting Parties are forming the solid bases of the Three Powers Pact. The German Government are convinced that the technical details of the Pact will be resolved without difficulties on fundamental confidence and that it would be contrary to the far reaching importance of the Pact to fix formally some single questions which could never thoroughly work out.

If Japan contrary to the aim of the Pact would ^{be} involved in a conflict with a power until now not belligerent, the German Government will

be

外
務
省

IMT 630

148

3376

Letter from German Ambassador to
Foreign Minister.

Excellency:

In the moment when our conversations concerning the Three Powers Pact are to be concluded successfully, it is Minister Stahmer's and my sincerest desire to express to Your Excellency our heartiest regard for your leading and generous cooperation in most accommodating spirit, we should like to state once more in this letter the conformity concerning the salient points which we always have found in our conversations with Your Excellency in regard of the aims and details of the Pact..

The German Government are convinced that the Contracting Parties are going to enter in

new

外
務
省

IMT 630

147

B-0061

3376

transmitted to myself during the conversations concerning the Three Powers Pact.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the highest consideration.

外
務
省

IMT 630

150

3376

be obliged without any doubt to assist Japan to the utmost extent and will offer every possible military and economic support.

Concerning the relations between Japan and U.S.S.R. Germany will help to obtain most friendly understanding and offer her good services for that purposes.

In the same way Germany will use her industrial capacity as far as possible in favor of our allied Japan in order to facilitate the peaceful establishment of the new order in the Greater East Asia.

I have the honour to present to Your Excellency this principal statement in accordance with the ideas of the German Foreign Minister conveyed personally by his special representative, Minister Stahmer, and according to the repeated instructions of German Government
transmitted

外
務
省

IMT 630

149

B-0061

齋藤顧問起草ノ本條約成立ノ際ニ於ケル近衛總理ノ談話原稿ニ付
キ本日松岡外相ニ於テ種々訂正ヲ加ヘ決定案トス、左ノ如シ

總理大臣談話(案)

日、獨、伊三國條約ノ締結ニ當リ畏クモ
天皇陛下

ニ於カセラレマシテハ皇國官民ニ對シ本日優渥ナル
勅語

ヲ下シ賜ハリマシタコトハ誠ニ恐懼ニ堪ヘヌ次第デアリマス、
我等臣民ハ大御心ヲ體シ、國難突破ニ最善ノ努力ヲ爲サネハナ
リマセヌ。

惟フニ皇國ハ今ヤ振古未曾有ノ難局ニ直面致シテ居リマシテ、

外務省

ト此際ノ處置如何ハ實ニ皇國ノ興廢ニ係ハル重大問題デアリマス、
政府ハ責任ノ極メテ重且ツ大ナルヲ痛感シ、萬遺憾ナキヲ期シ
テ居ル次第有リマス。

皇國ノ對外政策ハ支那事變ノ處理ニ邁進シ、東亞共榮圈ノ建設
ニ精進シツツ、曠テ世界全局ノ眞ノ平和確立ニ寄與セントスル
モノデアリマス。現下ノ國際情勢ヲ通觀致シマスルニ、皇國ノ
此眞意ハ今尙認識セラレマス、舊秩序ノ保持ヲ以テ平和デア
ト誤認スルカ、若クハ之カ變更眞ニ已ムヲ得ストスルモ、尙多
分ニ現状ニ戀々トシテ居ル國カアルノデアリマス。而シテ我大
東亞新秩序建設ヲ直接間接ニ妨礙セント企テ、甚タシキハ如何
ナル方法タルヲ問ハス、極力皇國ノ發展ヲ阻止セントスル國ノ

外務省

B-0061

存在致シマスコトハ、誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、皇國政府ハ從來右様ノ事態ヲ改善スルメ、大ニ努力シテ來タノテ有リマスカ、遺憾ナカラ今日マテソノ效果容易ニ顯ハレサルノミナラス、或方面ニ於テハ皇國ニ對スル壓迫ヲ益々露骨ニシテ參リマシタ。何時迄モ此狀勢ヲ續ケルニ於テハ、事態ハ益々紛糾シ、誠ニ憂慮スヘキ狀勢ヲ見サルヲ得ヌヤウニナリマシタ。此秋ニ當ツテ皇國ノ執ルヘキ態度ハ唯一ツシカ有リマセン、即チ内、速カニ國防國家ノ體制ヲ確立シ、一億一心、毅然タル決意ヲ爲シ、外、皇國ト志ヲ同フスル國ト密接ニ聯契シ、以テ繼々乎トシテ我國策遂行ニ邁進スルト同時ニ、右遂行ヲ阻碍スル諸國ノ猛省ヲ促スコトデアリマス。而シテ一面、國內ノ新體制

外務省

ニ就テハ、政府ハ其ノ完成ヲ急イテ居リマスカ、他方、外交ニ於テハ、先ツ皇國ト志ヲ同フスル獨、伊兩國ト結ヒ、而シテ後皇國ト共同シ得ヘキ爾餘ノ諸國ニモ働キカケテ、世界新秩序建設ノ終局ノ目的達成ヲ期スルコトヲ以テ此際ニ於ケル最善ノ策テアルト考ヘマシタ。ソコテ先般來外務大臣ニ於テ獨、伊兩國代表ト接衝シマシタ結果、本日發表致シマシタ三國條約ノ成立ヲ見タ次第デアリマス。此條約ハ大東亞及歐洲ニ於テ日、獨、伊三國カ現ニ努力シテ居リマストコロノ新秩序ノ建設ニ付協力シ、右三國ノ何レカカ、現ニ歐洲戰爭又ハ支那事變ニ參入シテ居ナイ國カラ攻撃ヲ受ケタル場合、他ノ締約國ハ政治上、軍事上及經濟上ノ有ラユル手

外務省

B-0061

段テ御互ニ助ケ合フコトニ成ツテ居リマス。此條約ハ素ヨリ日、獨、伊三國ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ存スル現在ノ政治的地位ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノテハ無イノデアリマス。本條約ハ亦大東亞新秩序ノ建設ニ付キ日本ノ指導的地位ヲ認メ、又歐洲ニ於テ獨、伊兩國カ努力シツアル新秩序ノ建設ニ付右兩國ノ指導權ヲ認メ、日、獨、伊三國カ相互ニ協力スルコトヲ規定シテ居ルノデアリマス。

大東亞新秩序指導者トシテノ皇國ノ責任ハ極メテ重大デアリマス、政府ハ飽迄平和手段ニ依テ此責任ヲ果ス積リテ有リマスカ、時ト場合ニ依ツテハ重大ナ覺悟ヲ必要トスルコトカ無イトハ限リマセヌ。前途ニハ幾多ノ障礙ト困難トカ横ハツテ居リマス、

外務省

並大抵ノコトテハ之ヲ突破スルコトカ出來ヌコトヲ充分ニ認識セネハナリマセヌ。之レカ爲メニ政府各員カ身命ヲ堵シ、最善ノ努力ヲ致スヘキコトハ勿論デアリマスカ、我國民モ亦内外ノ情勢ヲ洞察シ、政府ト共ニ此未曾有ノ難局打解ニ全力ヲ盡シ、一億一心、一切ノ苦難ト犠牲トヲ忍ヒ、奮勵努力シテ以テ大義ヲ宇内ニ顯揚セントシ給フ
大御心ニ副ヒ奉ラネハナリマセヌ。

外務省

B-0061

3376

九月二十三日

大臣ハ附屬公文ハ先方ヲシテ當方案全部ヲ入レシムルヲ要ス又調
 印地ヲ伯林トスル件ニ付テハ、交渉終了ニ近キ今日、突然此等申
 出ハ心得ストノ意味ニテ、強ク先方ニ申入レ置クヘントノ命アリ、
 齋藤顧問命ニ依リ白鳥顧問邸ニ同顧問ヲ訪問ス、種々協議ノ結果、
 白鳥顧問ヨリ先方ニ其ノ意ヲ傳ヘタリ。
 白鳥顧問大臣私邸ニ歸來、先方ノ主張ヲ報告シ、猶ホ命ニ依リ前
 日先方ヨリ提出シタル公文（議定書ニ代ルモノ）ニ修正ヲ加ヘテ
 左記ノ案ヲ大臣ニ提出ス。

（左記中黒線ノ部分ハ當方ニ於テ挿入又ハ訂正シタル部分）

外務省

日本標準規格 JIS 630

157

B-0061

3376

- 2 -

submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

It is needless to say that whether or not a Contracting Party has been attacked as stipulated in Article 3 of the Pact shall be determined upon consultation among the three Contracting Parties.

If Japan contrary to the aim of the Pact would involved in a conflict with a power until now not belligerent, the German Government will be obliged without any doubt to assist Japan will offer every possible military and economic support.

Concerning the relations between Japan and the U.S.S.R., Germany undertakes to use her good offices with a view to improving relations between the two countries and Germany, in conjunction with Japan and Italy, shall make utmost efforts to induce the U.S.S.R. to act

in

外
務
省

IMT 630

159

戊

3376

Letter from German Ambassador to Foreign Minister.

Excellency:

At the moment when our conversations concerning the Three Powers Pact are to be concluded successfully, it is Minister Stahmer's and my sincerest desire to express to Your Excellency our heartiest desire for your leading and generous co-operation in most accommodating spirit, we should like to state once more in this letter the conformity concerning the salient points which we always have found in our conversations with Your Excellency in regard to the aims and details of the Pact.

The conclusions of the Technical Commissions stipulated in Art. 4 of the Pact shall be
submitted

外
務
省

IMT 630

158

戊

B-0061

3376

- 3 -

in accord with the main purposes of the Three Powers Pact.

Germany will use her industrial capacity, and other resources technical and material as far as possible in favour of our allied Japan in order to facilitate the peaceful establishment of the new order in the Greater East Asia.

I have the honour to present to Your Excellency this statement in accordance with the ideas of the German Foreign Minister conveyed personally by his special representative, Minister Stahmer, and with the repeated instructions of German Government transmitted to me during the conversations concerning the Three Powers Pact.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

外
務
省

IMT 630

160

戊

B-0061

3376

午前十一時海軍次官ヨリ大臣ニ電話ニテ調印ノ日取問合セアリ、大臣ハ、思フ所アリ附屬文書ノ件ニ引カケテ、態々交渉ヲ停頓セシメ置ケル旨ヲ告ケ、我委任統治地域ニ關スル交換公文ハ、此際之ヲ「ドロッパ」シ置クコトモ、將來我方ヲ拘束スルコトナキ意味ニ於テ、或ハ適當ナラスヤトモ思考スルモ、研究ノ上電話ニテモ宜シキニ付、結果御知ラセテ請フト告ケ、先方之ヲ承諾セリ、其際ノ問答ニ依リ陸軍側ノ積極的ナルニ對シ、海軍側ノ極メテ慎重ニシテ消極的ナルヲ一層明亮ニシタリ、松岡外相カ其間ニ處シ兩者ヲ引付ケ、取纏メテ條約締結ニ廟議ヲ一決セシメタル苦心ハ察スルニ餘リアリ。

午後三時半松本條約局長大臣ノ命ニ依リ獨逸大使ヲ訪問、口上書

外務省

日本標準規格B5 161 IMT 630

3376

キヲ手交ノ上、當方ニ於テハ前夜大使館ヨリ提出ノ案ニ付テハ目下精々研究中ナル旨ヲモ附言シタリ。
右口上書左ノ如シ。

外務省

日本標準規格B5 162 IMT 630

B-0061

3376

- 2 -

in interpretation.

Please also get as quickly as possible answer this point.

3. Will you please ask Ribbentrop for the last time to agree to authorise the German Ambassador here to exchange note with Foreign Minister (Matsuoka) on the contents of Draft Protocol as drawn up (of course not in the form of the secret Protocol) and try to get answer as early as possible.

N.B. - Foreign Minister confesses that he is unable to proceed further on the matter without definite replies from Berlin on the above three points.

外
務
省

IMT 630

164

戊

3376

1. Does Ribbentrop insist of signing the Pact at Berlin? Matsuoka has been negotiating the Pact all through with an assumption that the Pact would be signed at Tokio which has been shared by all these who have taken part in deliberation concerning this question.

2. Waving all formalities in order to expedite matter, would it not be better to have only one text common to three Contracting Parties that is English text on which we have been negotiating? If we insist to have the Pact in three languages it would necessitate as to have German and Italian versions together with Japanese text for submission to Privy Council to be examined closely in each of the three languages. This would further postpone the conclusion and publication of the Pact which I hate to see. Again, one language text would go far towards to lessen possible discrepancy

in

外
務
省

IMT 630

163

戊

B-0061

右ニ對スル獨逸大使及「スターマー」公使ノ返答要領左ノ如シ、
 (イ)口上書第一ノ條約調印地ヲ伯林トスルコトニ付テハ、昨夜大臣
 同意セラレタル故、其旨伯林ヘ電報シタリ、本來我等モ東京ニ
 テ「サイン」スル積リナリシモ、伯林ヨリ強キ訓令アリタルニ
 付、昨日白鳥顧問ニ其旨申出タル次第ナリ、然シ兎ニ角請訓ス
 ヘキモ、獨、伊トシテハ此問題ヲ非常ニ重要視シ、對歐洲政策
 上是非共伯林トシ度シ、日本ニ取りテモ米國ヲ餘リ「イリテイ
 ト」セシメサル效果アルヘント思考ス、伯林ヨリノ返答ハオソ
 ラク negative ナルヘント想像セラル。
 (ロ)口上書第二ノ條約正文ヲ英語トスル點ニ付テハ、伯林ヘ既ニ請
 訓済ミナルモ、今回御申出ノ次第ハ至極御尤モニ付、再應伯林

外務省

ニ請訓スヘシ、猶ホ獨逸正文ハ既ニ出來タルニ付夕刻御送り
 スヘシ、伊太利文ハ手許ニハ無キモ、早ク取ル様處置スヘシ。
 (イ)口上書第三ノ「プロトコール」ヲ交換公文ノ形式トシタルモノ
 ニ付テハ、伯林ハ之ヲ承諾セサルヘント思考ス、何トナレハ右
 ハ豫テヨリ申述ヘ置キタル通、日本側ノ一方的要求ノ羅列ニ過
 キス、若シ之ヲ通ストナラハ、是非共獨、伊側ノ要求ヲモ入レ
 サル可カラスシテ、之レカ決定ニハ多大ノ日子ヲ要スヘシ、加
 之本條約實施ノ後ニ於テハ、日本側ノ要求ハ何レモ事實上容レ
 ラルヘキモノナルニ付、個々ノ問題ヲ列記スルヨリハ、寧ろ條
 約ノ全面的且誠實ナル施行ニ讓ルヲ可トスヘシ、然シ外相ノ御
 希望トアラハ伯林ニ取次クヘシ。

外務省

3376

九月二十四日

大臣ハ本條約問題ノ爲メ繁忙ヲ極ムルニ付、近衛首相ト打合ハセ
ノ上、本日午前十時ヨリノ閣議ニ缺席ス。

午前九時三十分大臣ハ自ラ條約ノ日本文字句ヲ英文案ニ依リ訂正
シ、決定譯文トス。

又本日大臣ハ二十二日獨逸大使ヨリ提出セル公文案（議定書ニ代
リタルモノ）ニ付キ松岡外相自ラ叮嚀ニ加筆訂正ス。左ノ如シ。

外務省

CH 本標準規格 B5

IMT 630

168

3376

猶ホ右會談中伯林ヨリ左記電報アリ即チ左ノ如シ。

(1) 條約案文（即チ前記最後案）ヲ承認ス。

(2) 「プロトコール」ハ承認出來ス。

(3) 調印地ハ伯林ヲ主張ス。

外務省

CH 本標準規格 B5

IMT 630

167

B-0061

3376

- 2 -

reiterated in our conversations with Your Excellency which are as follows:

Conclusions of the Technical Commissions stipulated in Article 4. of the Pact shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

It is needless to say that whether or not a Contracting Party has been attacked within the meaning of Article 3. of the Pact shall be determined upon consultation among the three Contracting Parties.

Should Japan, contrary to the aims of the Pact, be involved in a conflict with a Power with which she is not now at war, the German Government will be obliged without any doubt to come to Japan's aid by all means and to extend every possible military and economic support.

Concerning the relations between Japan and the

外
務
省

IMT 630

170

戊

3376

(The Original German Ambassador's draft
as modified by Matsuoka, September
24).

Strictly Confidential

(Letter from German Ambassador to
Foreign Minister.)

Excellency:

At the moment when our conversations, begun on the 9th instant at Tokyo, are about to eventuate in a successful conclusion of the Three Powers Pact, it is Minister Stahmer's and my sincerest desire to tender to Your Excellency the expression of deepest appreciation for the principal part Your Excellency has played throughout in a most generous and accommodating spirit.

We wish to take this occasion to state once more in this letter some of the salient points reiterated

外
務
省

IMT 630

169

戊

B-0061

3376

- 4 -

with Germany and Japan when and where assistance and co-operation by Italy is sought in reference to the matters above enumerated.

I beg herewith to confirm what has already been repeatedly said, and orally made clear to Your Excellency, in accordance with the ideas of the German Foreign Minister, conveyed personally by his special representative, Minister Stahmer, and later stated in repeated instructions to me from the German Government in the course of conversations relating to the Three Powers Pact.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the highest consideration.

外
務
省

IMT 630

172

戊

3376

- 3 -

the U.S.S.R., Germany undertakes to use her good offices with a view to improving relations between the two nations, and furthermore Germany will persuade Italy to join with our two countries in making utmost efforts to induce the U.S.S.R. to act in accord with the main purposes of the Three Powers Pact.

Germany will use her industrial capacity, and other resources technical and material as far as possible in favour of Japan in order both to facilitate the establishment of a new order in Greater East Asia and to enable her to be better prepared for any emergency. She will further undertake to aid Japan in procuring in every possible way minerals including oil which Japan will have been in need of.

The German Foreign Minister implicitly believes that Italy will of course act in concord with

外
務
省

IMT 630

171

戊

B-0061

3376

Strictly Confidential

(Letter from Foreign Minister to
German Ambassador.)

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt
of Your Excellency's letter No. of this
date and I feel happy to take note of the contents
therein.

I avail myself of this opportunity to renew
to Your Excellency the highest consideration.

外
務
省

戊

IMT 630

173

B-0061

午後三時陸軍大臣ヨリ電話ニテ本件進行状態ノ質問アリ、之ニ對シ松岡外相ヨリ「今或二、三ノ點ニ付先方ヲ引摺リ交渉ヲ遷延セシメツツアリ、之レニ(1)本條約ノ内容カ既ニ外間ニ相當洩レ居ル今日、締結ヲ一日二日遷延ストモ、我方ニ對スル效果ニ殆ント差違ナキコト(2)先方カ締結ヲ急キ居ルコト我方ヨリモ一層甚タシキヲ以テ、先方ヲ引摺ルコトハ、我方ノ要求ヲ透徹セシムルニ利アルコト(3)「リップペン」ノ申出ヲ一モニモナク受入ルルコトハ、將來ノ日獨協議ニ惡影響ヲ及ホスコト等ノ理由ニ依レリ、調印ノ期ハ多少遅ルルモ條約ノ成立ニハ何等心配ナシ」ト答フ。

午後五時松岡外相ハ海軍次官ニ電話シ、太平洋舊獨領諸島ノ問題ハ此際ハ引込メ、後日日本ノ利益ノ爲メニ處置方法ヲ決スルヤウ

外務省

公文ヲ送付シテ、一先ツ結末ヲ附ケルコトトシタル旨ヲ告ク。同時刻「オット」大使「スターマト」公使帶同松岡邸ニ來リ、五時十五分ヨリ談判ヲ繼續ス。

本日當方訂正交換文書ヲ(「プロトコール」ニ代ルヘキモノ)ヲ議題トシ、左記ノ通訂正確定ス

(「アンダーライン」アル部分ハ原案ニ附加又ハ訂正ヲ加ヘタル部分ヲ示ス)

外務省

B-0061

又太平洋ニ於ケル舊獨領諸島ノ問題ハ「現ニ日本ノ委任統治下ニ在ル舊獨領殖民地カ引續キ日本ノ屬地ナルコト、之レカ爲メ獨逸ハ何等カノ代償ヲ受クルコト、南洋ニ於ケル其ノ他ノ舊獨逸殖民地ニ關シテハ、現歐洲戰爭終結シ自動的ニ獨逸ニ復歸シタル後、獨逸ハ出來得ル限り日本ニ有利ニ有償ニテ處分スル爲メ日本ト協議スルコト」ニ決定シタリ、他方日英戰爭ノ場合ニ於ケル獨逸ノ援助ニ關スル交換文書ハ二十二日ノ會談ニ於テ既ニ決定シタルヲ以テ、文書ノ關スル限り全部妥結ヲ見、調印地ハ伯林トシ、正文ハ日、獨、伊三國「テキスト」トスルコトトナル、斯クテ條約ニ關シ完全ナル妥結ニ至リタルハ實ニ昭和十五年九月二十四日午後七時二十五分ニシテ、今ヤ調印ヲ待ツ許リトナレリ。

外務省

松岡外務大臣ハ「オット」獨逸大使及「スターマト」公使ニ對シ、此ノ際「ヒットラー」總統及「リップベントロップ」外務大臣ニ左ノ通傳達方依頼セリ。
「元來日本トシテハ現在ノ歐洲戰爭ニ於テ現ニ優勢ナル獨伊ト此ノ際提携スルハ甚タ快カサル處ナリ本大臣ノ心持ヲ卒直ニ申セハ、敗色濃厚ナル英國ニ敵對スルヲ潔シトセス、寧ロ米ト結ヒテ之ヲ援ケンコトヲ欲スルト云フ氣持スラスル次第ナリ之レ即チ眞ノ日本人ノ氣持ナリ。
然レトモ吾人ハ單ニ氣持ノ儘國際關係ヲ處理スル能ハサルハ勿論ニシテ、前記日本人ノ感情ニ逆行シテ此ノ際三國同盟ヲ締結スル次第ナルカ、右ハ獨逸側ノ勝利ヲ見越シテ決意セルニ非ス。從ツ

外務省

3376

テ假ニ獨伊形勢非トナル如キ場合ニハ一右ノ如キ事ハ固ヨリ期待
モ希望モセス、且杞憂ナラン事ヲ祈ルモノナルカ一苟モ同盟ヲ締
結セル以上日本ハ益々獨伊ノ急ニ赴クモノナリ。
斯ク心得ヘテ本大臣ハ本同盟條約ヲ締結セントスルモノナリ。
翌九月二十五日松岡外相ハ在京伊太利大使「インテリ」氏ノ來訪
ヲ求メ、私邸ニ於テ本同盟ニ付内談シタル際、右ト同様ノ事ヲ「
ムツソリー」ニ首相及「チアノ」外相ニ本大臣ノ言トシテ傳フヘキ
事ヲ依頼セリ。

又松岡外相ハ斯ル氣持ト決心トヲ以テ本三國同盟條約締結ノ要ヲ
本件ニ關スル閣議、御前會議及樞密院委員會ニ於テ説キタリ。
斯クシテ日、獨、伊三國條約ニ關スル東京會談ノ終結シタルハ實

(日本標準規格B5)

IMT 630

178

外務省

3376

ニ昭和十五年九月二十四日午後七時二十五分ナリ。

右妥結成ルヤ齋藤顧問ハ命ニ依リ近衛首相、東條陸相、及川海相
ニ右妥結ノ次第ヲ電話ニテ通告ス

午後十時近衛首相談話文英譯成リタルヲ以テ齋藤顧問ハ交換公文
案(「プロトコール」ニ代ルヘキモノ)ト併セ、獨逸大使館ニ持
參ス(九月二十六日ニ至リ右總理談話ハ之ヲ外務大臣談話トシテ
全國放送ノコトニ變更セラル)

(日本標準規格B5)

IMT 630

179

外務省

B-0061

3376

九月二十五日

友田祕書官午前九時確定條約案ヲ陸、海軍各大臣ニ送付ス。

午前十時外相參内經過ヲ内奏ス。

午前 時大臣電話ニテ獨逸大使ト談話ノ結果、此際ハ假リニ英文ヲ本文トシテ調印シ、後日之ヲ日、獨、伊三國文ニ摺カヘルコトトナリ、松本條約局長ハ樞密院書記官ト打合ハセ、右ニ依リ處置スルコトトナリ、二十六日午前十時ヨリ樞密院ニ附議スルコトニ決シ、條約局長ハ徹夜ニテ準備ヲ取急ク。

本日午後伊太利大使松岡私邸ニ松岡外相ヲ訪問、本國政府ノ訓令ヲ受ケタル趣ヲ以テ、伊太利政府カ本條約ノ締結ニ同意シタルコト、及、萬事ハ獨逸政府ニ委任シアルコトヲ告ケ辭去ス。

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

180

3376

午後〇時二十五分齋藤顧問命ニ依リ、條約文附屬文書三通ヲ近衛首相ニ手交ノ上概要ヲ説明ス。

午後三時別紙勅語案ヲ内閣總務課長ニ送付ス。

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 630

181

B-0061

大義ヲ宇内ニ宣揚シハ故ヲ一字タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ遺烈ニシテ朕カ夙夜忘ルル能ハサルトコロナリ、今ヤ世界ハ舉ケテ紛亂シ諸邦多ク其ノ禍殃ヲ受ク更ニ紛亂ノ擴大ハ寔ニ朕ノ忍ヒサルトコロニシテ平和ノ克服一日モ速カナランゴトヲ惘念シテ已マス仍チ朕ハ朕カ政府ニ命シ皇國ト其ノ志向ヲ同フスル獨逸國及ヒ伊太利國ト提携協力ノ事ヲ議セシメ茲ニ三國間相互援助ニ關スル條約ノ成立ヲ見タリ朕深ク之ヲ嘉フ

惟フニ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得セシメ衆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンセシムルハ蓋シ曠古ノ大業ニシテ前途甚タ遼遠ナリ爾臣民善ク堅忍不拔心ヲ一ニシ國是ニ恪遵シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ

昭和十五年九月 日

外務省

九月二十五日

午前十一時獨逸大使館「ホルツエ」參事官松本條約局長ヲ來訪、獨逸外務省ヨリ大使宛左ノ通來電アリタル旨ヲ述フ。

一 獨逸政府ハ條約「テキスト」(英文)ヲ承認ス

二 伊太利政府モ右「テキスト」ヲ承認ス可キコトヲ確信ス、獨逸外務省ハ伊太利外務省ヨリ在東京伊太利大使カ松岡大臣ニ條約ヲ受諾スル旨正式ニ申入ルル様依頼セリ

三 (1) 獨逸政府ハ英語「テキスト」ニ假ニ署名スルコトニ同意ス

(2) 右事實ハ絕對ニ極秘トス

(3) 二週間位後陰密ノ裡ニ英文「テキスト」ヲ日本文、獨逸文、伊太利文ニスリカヘ署名ス

外務省

四 來栖大使ニ對スル全權委任狀ハ在京獨逸大使館ニ寄託シ其事實ヲ大使ヨリ獨逸外務省ニ電報ス（右ノ點ニ關シテハ條約局長ヨリ今回ノ如キ批准條項ナキ條約ニハ正式ノ全權御委任狀ハ下附セラレサルヲ以テ來栖大使ニ於テ條約締結方御裁可アリタル趣ヲ外務大臣ヨリ在京獨逸大使ニ通報方取計フ可シト述ヘタルニ「ボ」參事官ハ右ニテ可ナリト答ヘタリ）

五 成ル可ク二十六日ニ署名ノ運ヒト致度（松本條約局長ヨリ右ハ實際上不可能ナリト述ヘタリ）

尚大使ノ希望トシテ總理大臣ノ「ステートメント」ノ案ハ來栖大使ニ電送獨逸外務大臣ニ提示セラレ打合サルル様致度、松岡大臣カ伊太利大使ニ會見ノ際ハ例ノ三ツノ書翰ニハ絶對ニ言及

外務省

セラレサル様希望ス（尙三書翰ハ大臣ヨリ大使宛ノ分ハ日本文ニ英譯ヲ附シ大使ヨリ大臣宛ノ分ハ獨逸文ニ英譯ヲ附スル事ニ申合セタリ）

午後四時半「オット」大使松岡私邸來訪「デテイル」ニ付協議ス

外務省

B-0061

3376

日本國、獨逸國及伊太利國間三國條約

外務省

(日本標準規格 B5)

IMT 630

187

3376

九月二十六日

條約文（日本文）ヲ樞密院會議ニ附議ス議題ハ左記ノ如シ

外務省

(日本標準規格 B5)

IMT 630

186

B-0061

日本國、獨逸國及伊太利國間三國條約

大日本帝國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルヲ以テ恒久平和ノ先決要件ナリト認メタルニ依リ大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ各其ノ地域ニ於ケル當該民族ノ共存共榮ノ實ヲ舉クルニ足ルヘキ新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ根本義ト爲シ右地域ニ於テ此ノ趣旨ニ據レル努力ニ付相互ニ提携シ且協力スルコトニ決意セリ而シテ三國政府ハ更ニ世界到ル所ニ於テ同様ノ努力ヲ爲サントスル諸國ニ對シ協力ヲ吝マサルモノニシテ斯クシテ世界平和ニ對スル三國條約ノ抱負ヲ實現センコトヲ欲ス依テ日本國政府獨逸國政府及伊太利國政府ハ左ノ通協定セリ

第一條

外務省

日本國ハ獨逸國及伊太利國ノ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

第二條

獨逸國及伊太利國ハ日本國ノ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

第三條

日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ方針ニ基ク努力ニ付相互ニ協力スヘキコトヲ約ス更ニ三締約國中何レカノ一國カ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラサル一國ニ依テ攻撃セラレタルトキハ三國ハ有ラユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スヘキコトヲ約ス

外務省

B-0061

第四條

本條約實施ノ爲各日本國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ニ依リ任命セラルヘキ委員ヨリ成ル混合專門委員會ハ遲滯ナク開催セラルヘキモノトス

第五條

日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記諸條項カ三締約國ノ各ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ現存スル政治的狀態ニ何等ノ影響ヲモ及ホササルモノナルコトヲ確認ス

第六條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルヘク、實施ノ日ヨリ十年間有效トス

外務省

右期間滿了前適當ナル時期ニ於テ締結國中ノ一國ノ要求ニ基キ締約國ハ本條約ノ更新ニ關シ協議スヘシ
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ

ニ於テ本書三通ヲ作成ス

外務省

B-0061

3376

THREE POWERS PACT BETWEEN JAPAN, GERMANY
AND ITALY.

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized.

Accordingly

外
務
省

IMT 630

193

戊

3376

THREE POWERS PACT
BETWEEN
JAPAN, GERMANY AND ITALY.

外
務
省

IMT 630

192

戊

B-0061

- 3 -

of the three Contracting Parties is attacked by a power at present not involved in the European War or in the Sino-Japanese Conflict.

ARTICLE 4.

With a view to implementing the present Pact, Joint Technical Commissions the members of which are to be appointed by the respective Governments of Japan, Germany and Italy will meet without delay.

ARTICLE 5.

Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three Contracting Parties and Soviet Russia.

ARTICLE 6.

- 2 -

Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

ARTICLE 1.

Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

ARTICLE 2.

Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

ARTICLE 3.

Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one

of

B-0061

3376

- 4 -

ARTICLE 6.

The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at , the day of the month of the year of Syōwa, corresponding to the

外
務
省

IMT 630 196

B-0061